52
626

神奈京都名勝通覧記

横田花枝 著

博文館蔵版

山川縮作袖中珍。欲贈觀
光遠遒人。千載帝都佳麗
地。偕君筆彩一層新
題京都名勝廻覽記

乙未仲春

拈華庵主人

凡例

本編は遠來觀光者の指導に供するものにして專はら西洋諸國に行はるゝガイドブックに倣ふと雖も極めて輕便を主とするを以て其精神を採て其體を摸さゞ

各地名勝の廻覽順序は三條大橋に首まり同所に尾るは一に順路の便による而して同所より起程するは從來各地の里程を算する元標なるを以てなり

京都は我邦名勝舊蹟の淵叢にして神祠佛刹の顆多なる一小冊子の盡す所に非ざれども勉めて之を本編中に網羅し地位名稱由緒沿革風致等其概畧を示し一睹の下に眉目判然たらしめ編中各冒頭に○神社●佛閣◉名所故跡△公▲私の符號を冠せしむ

紀念祭聯合府縣は之を實地に踏査する時日なきを以て各地の報道に據り其大要を列記す其符號は尚前例を用ふ多數遊覽人中歸期を急ぎ僅々數日間に本州各地の風光を觀んとするもの、爲め別に京都早めぐりてふ記程を錄し其嚮導に當て更に遺憾勿らしむ

遷都紀念祭及び第四回博覽會の記事は當初其精密を期せしに本書脫稿に際し尚準備に屬するもの多く徃々設計の未定或は變更するものあれば之を他日の再版に讓り但其要領を卷末に附す

本書は短日子間に起草し忽々印刷に附せしを以て嚴に校正を加へしもなほ、錯誤を免かれざる請ふ再刊の日を待て訂正せむ

編者謹識

特61
508

京都名勝回覽記目錄

○山城國	一丁	○瑞泉寺	十九丁
○京都	三丁	○新京極	二十丁
○皇居御苑	五丁	○誓願寺	廿一丁
○二條離宮	十一丁	○和泉式部塔	同
○桂離宮	十二丁	○韋魚藥師（附養壽寺）	廿二丁
○修學院離宮	十四丁	○錦天滿宮（附歡喜光寺）	廿三丁
○東山	十五丁	○金蓮寺	廿四丁
○鳴川	十六丁	○染殿地藏	廿五丁
○三條大橋	十七丁	○祇園旅所	同
○高瀨川	十八丁	○大雲院	同

○淨敎寺 重盛公碑　廿七丁
○神宮敎京都本部　同
附 火除天滿宮
○四條橋 附南座　廿九丁
○五條橋　三十丁
◉夕顏塚　卅一丁
○御影堂 附屋下京區役所、世繼地藏、太子堂、市比賣神社　卅二丁
○本覺寺　卅三丁
○長講堂　卅四丁
○眞言大學寮　同
○東本願寺　卅五丁
○涉成園　卅九丁
○金光寺　四十一丁
○七條停車場　同
○東寺　同
○羅城門舊跡　四十五丁
○六孫王神社　四十六丁
○西寺　四十七丁
○源爲義塚　同
○島原遊廓　同
○壬生寺　四十八丁
○西本願寺　同
滿翠園　大學林
○興正寺　五十四丁
○敎內氏茶亭　五十五丁
○本國寺　五十六丁
○五條天神　六十丁
○醒井　同
○菅大臣社　六十一丁
○北菅大臣社　同
○文子天滿宮　同
○玉津島神社　同
○因幡藥師　六十二丁
○佛光寺　六十三丁
○盜也寺 附鉢敲堂　六十四丁
○更雀寺　六十五丁
○六角堂 附池之坊　同
○京都郵便電信局
○日出新聞社　同
○矢田地藏　六十七丁
○天性寺　同
○本能寺 信長公塔　同
○織事堂
○天主堂 常盤ホテル　六十八丁
○妙滿寺　同
○專修寺別院　六十九丁
○革堂　七十丁
○下御靈神社　同
○高等女學校 療病院
○師範學校　七十一丁

○盧山寺　同
○淨華院　同　七十二丁
○本禪寺　七十三丁
○梨木神社　七十四丁
○本滿寺　同
○阿彌陀寺　同
○上善寺　七十五丁
○上御靈神社　同
○相國寺　七十八丁
○同志社　華族會館分局
○妙顯寺　同　七十九丁
○妙覺寺　八十丁
○本法寺　同　八十一丁
○千氏茶亭　同
○報恩寺　同　八十二丁
○妙蓮寺　同
○瑞龍寺　八十三丁
○堀川　同
○西陣　八十四丁
○白峯神社　同
○民橋　同　八十五丁
○本隆寺　八十六丁
○聚樂城舊址　同
○七野神社　同　八十七丁
○引接寺　八十八丁
○般舟三昧院　同　八十九丁
○清和院　同
○本光院　同　九十丁
○北野神社　九十一丁
○觀音寺　九十二丁
○立本寺　九十三丁
○名和長年戰死碑　九十四丁
○神泉苑　同　出世稻荷、監獄署、養蠶場
京都紡績會社
○京都盲啞院　九十五丁
○京都府　九十六丁
○護王神社　九十七丁
○宗像神社　九十八丁
●祇園遊里　同　女紅場、歌舞練場
祇園座
○仲源寺　九十九丁
○八阪神社　祇園會　百丁
○圓山公園　百一丁
○長樂寺　百二丁
○安養寺　百三丁
○知恩院　百四丁
○將軍塚　百五丁
○青蓮院　百六丁

○植髮堂　百八十丁
○粟田神社　百十一丁
○東大谷別院　同
○雙林寺　百十二丁
○西行上人塔　百十三丁
附平康頼塔、頓阿法師、西行庵芭蕉堂、大雅堂
○安井神社　百十三丁
○建仁寺　百十四丁
○惠美須神社　百十六丁
○念佛寺　同
○六波羅密寺　百十七丁
○六道珍皇寺　百十八丁

○八阪塔　同
附伽羅觀音、七觀音、庚申堂
○高臺寺　百十九丁
○靈山招魂場　百二十丁
○正法寺　百廿一丁
○興正寺廟所　同
○清水寺附地主神社　同
○清閑寺　百廿五丁
○小督局墳　同
○西大谷別院　同
○若宮八幡宮　百廿六丁
○三島神社　同

○正林寺　百廿七丁
○妙法院　同
○豐國神社　百廿八丁
○大佛殿洪鐘豐太閤塔　同
○耳塚　百三十丁
○新日吉神社　同
○阿彌陀峯　同
○智積院　同
○帝國京都博物館　百卅一丁
○養源院　百卅二丁
○三十三間堂　同
○新熊野神社　百卅三丁

○今熊野觀音　同
○泉涌寺　百卅四丁
○雲龍院　百卅六丁
●檀王法輪寺　同
○頂妙寺　百卅七丁
○寂光寺　同
○要法寺　百卅八丁
○白川橋　同
○水利工場　同
○南禪寺　百卅九丁
景烈祠、東照宮、細川幽齋、梁川星巖同紅蘭女史墓、駒瀧
○法勝寺舊址　百四十二丁

○平安神宮 大極殿 百四十三丁
●絹糸紡績會社 藤井紡績所 百四十五丁
○熊野神社 同
○聖護院 同
○金戒光明寺 百四十六丁
鎧懸松、熊谷直實、平敦盛の塔
○神樂岡 百四十八丁
○眞如堂 同
○宗忠神社 百四十九丁
○吉田神社 百五十丁
○尊良親王墳 百五十二丁
○永觀堂 同

○若王子神社 百五十三丁
附 光雲寺、女三宮墓
○靈鑑寺 百五十五丁
○如意嶽 大字火 同
○安樂寺 百五十六丁
○法然院 百五十七丁
○銀閣寺 同
○詩仙堂 頑仙碑 百五十九丁
○北山別院 百六十丁
○圓光寺 同
○曼珠院 百六十一丁
○林丘寺 同

○赤山神社 百六十一丁
○寶幢寺 仝
○御蔭神社 百六十二丁
○八瀬天滿宮 仝
○大原 百六十三丁
○惟喬親王遺跡 仝
○勝林院 仝
○後鳥羽帝御塔 百六十四丁
○來迎院 仝
○音無瀧 仝
○阿彌陀寺 百六十五丁
○寂光寺 朧清水 仝

○建禮門院御塔 百六十六丁
○江文神社 仝
●京都織物會社 仝
○岡崎別院 百六十七丁
○百万遍 仝
○千菜寺 百六十八丁
○加茂御祖神社 仝
○妙泉寺 百六十九丁
○大雲寺 百六十九丁
附 實相院、藤房卿遁世遺址
○圓通寺 百七十丁
○三宅八幡宮 仝

○御菩薩池　百七十丁
○加茂別雷神社　百七十一丁
○鞍馬寺　仝
○貴船神社　百七十二丁
○船岡山　仝
○建勳神社　仝
○紫式部墓　百七十三丁
○大德寺　百七十三丁
○今宮神社　百七十四丁
○遍照寺　仝
○正傳寺　百七十五丁
○光悅寺　仝

●棲霞嶽　百七十五丁
○小野道風社　百七十六丁
○金峯寺　仝
○平野神社　仝
○金閣寺　百七十七丁
○衣笠山　百七十九丁
○眞如寺　百八十丁
○等持院　仝
○龍安寺　百八十一丁
○妙心寺　仝
○雙丘　百八十四丁
○法金剛院　仝

○仁和寺　百八十四丁
○五智如來　百八十七丁
○梅畑八幡宮　仝
○神護寺　百八十七丁
○西明寺　百八十八丁
○高山寺　仝
○愛宕山　百八十九丁
○愛宕神社　仝
○月輪寺　仝
○水尾山寺　百九十丁
○廣澤池　仝

附　大澤池、名社瀧、菖蒲谷

○大覺寺　百九十一丁
○清凉寺　百九十二丁
○楠正行公首塚　百九十三丁
○厭離庵　仝
○往生院舊跡　仝
○勾當內侍隱棲跡　百九十三丁
○新田義貞公首塚　仝
○小倉山　仝
○二尊院　仝
○天龍寺　百九十四丁
○臨川寺　百九十五丁
○車折神社　百九十五丁

○鹿王院　百九十六丁
○小督墳　〃
○龜山　〃
○大堰川　百九十七丁
○嵐山古城跡、戸難瀬飛泉　〃
○大悲閣　百九十八丁
○法輪寺　百九十九丁
○松尾神社　〃
○月讀宮　二百丁
○西芳寺　〃
○淨住寺　〃
○谷の地藏　二百一丁

○西山御坊　二百一丁
○長福寺　〃
○梅津製紙場製革場　二百二丁
○梅宮神社　〃
○廣隆寺　二百三丁
○大酒神社　〃
○木島神社　二百四丁
○高山寺　〃
○向神社　〃
○長岡宮城大極殿遺址　二百五丁
附　島院舊跡
○大原野神社　〃

十二

○勝持寺　二百五丁
○金藏寺　二百六丁
○三鈷寺　〃
○善峯寺　二百七丁
○大歲神社　〃
○光明寺　〃
○乙訓神社　二百八丁
附　乙訓寺、長法寺
○海印三昧寺　〃
○楊谷寺　〃
○長岡天滿宮　二百九丁
○神足神社　〃

○小倉神社　二百九丁
附　圓明寺、葛原親王墓
○觀音寺　二百十丁
○酒解神社　〃
○寶寺　二百十丁
○離宮八幡宮　二百十一丁
○與杼神社　〃
○羽束師神社　〃
附　川原寺舊址
○久何神社附水閣趾　〃
●吉祥院　二百十二丁
○寶相寺　〃

○戀塚　二百十二丁
○鳥羽離宮故跡　二百十三丁
○城南宮　仝
○不動院　二百十四丁
○安樂壽院　仝
○東福寺　仝
○稻荷神社　二百十六丁
○石峯寺　二百十七丁
○寶塔寺、　仝
○瑞光寺　仝
○藤森神社　二百十八丁
○愚染寺　仝
○伏見町　二百十九丁
○御香宮神社　仝
附　金札神社、油懸地藏、豐後橋、月橋院
○桃山　二百二十丁
○桓武天皇御陵　二百二十一丁
●巨椋大池　仝
○淀河　淀橋　二百廿二丁
○淀城址　仝
○八幡山　仝
○男山八幡宮　二百廿三丁
○小野頼風塚　二百廿四丁
○正法寺　二百廿五丁

○妙勝禪寺　酬恩庵　二百廿五丁
○甘南備神社　仝
○筒城故都址　仝
○祝園神社　仝
○藤原百川公墓　二百廿六丁
○木津　仝
○木津川　二百廿七丁
附　木津川橋、一の坂、鹿背山
○泉橋寺　二百廿七丁
○恭仁都故跡　二百廿八丁
○瓶原　仝
○甕原故宮址　仝
相樂領宮、國分寺、海住山寺、光明山、蟲倉宮社、蟹滿寺、神童寺
○岡田鴨神社　二百廿九丁
○岡田國神社　仝
○笠置山　二百三十丁
○笠置寺　二百卅一丁
淨瑠璃寺、燃峯山、金胎寺、大智寺、宇治田原、天武帝祠、田原皇子、禪定寺、猿丸太夫祠、藤原信西塚、玉津岡神社、玉水井手玉水玉井寺
●久世神社　二百卅二丁
○宇治町　仝
○宇治川　宇治橋　二百卅四丁
○平等院　扇の芝　二百卅五丁

○橋寺　三百卅六丁
○宇治神社　〃
○興聖寺　二百卅七丁
○朝日山　〃
●三室戸寺　〃
○萬福寺　〃
○許波多神社　二百卅八丁
○法界寺　〃
附　重衡首塚、長明方丈石
○一言寺　二百卅九丁
○下醍醐寺　〃
○上醍醐寺　二百四十丁
○笠取山　二百四十丁
○隨心院小町水、少將通路　〃
○勸修寺　二百四十一丁
○田村麿墓　二百四十二丁
○岩屋神社　〃
○大石良雄宅址　〃
○元慶寺　〃
○山科別院　二百四十三丁
○蓮如上人墓　〃
○音羽瀑　〃
○法嚴瀑　〃
○四宮川　二百四十四丁
○十禪寺　二百四十四丁
○諸羽神社　〃
○毘沙門堂　二百四十五丁
○安祥寺　〃
○御廟野　二百四十六丁
○日岡　〃
●在山城國歷代御陵一覽表　二百四十七丁

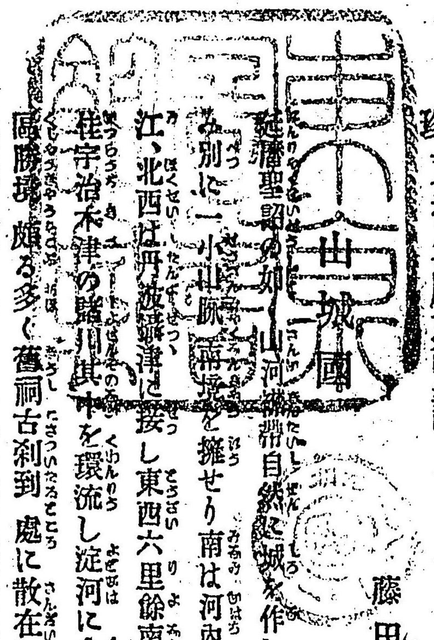
◎聯合府縣

○滋賀縣　二百四十九丁
○岐阜縣　二百四十九丁
○愛知縣　二百五十丁
○三重縣　二百五十一丁
○奈良縣　二百五十二丁
○大坂府　二百五十三丁
○兵庫縣　二百五十四丁
○岡山縣　二百五十五丁
○廣島縣　二百五十六丁
○香川縣　二百五十八丁

◎百事便覽

○京都早めぐり　二百五九丁
○京都博物館什寶受託
　規則大意　二百六十八丁
○京都時代品展覽會　二百六十九丁
○鐵道ゟ就ての注意　二百七十丁
○手荷物賃金表　二百七十四丁
○滊車並に滊船賃金
　の割引　仝
○京都電氣鐵道　二百七十七丁
○郵便諸稅畧則　二百七十八丁
○郵便爲替料　二百八十丁
○電信料　二百八十一丁
○内國貨幣陸地遞送
　賃錢畧表　二百八十一丁
○仝配達賃錢表　仝
○小包郵便一覽表　仝
○三條大橋より
　各地名勝里程　二百八十三丁
○七條停車場より各地里程
○幷人力車賃錢表　二百八十五丁
○新選京都花ごよみ　二百八十六丁
○銀行　二百八十八丁
○會社　二百八十九丁
●諸名家
　○歌　二百九十丁
　○國學　仝
　○詩文　二百九十一丁
　○儒　仝
　○書　仝
　○畫　仝
　○篆刻及彫刻　二百九十二丁
　○醫　仝
　○茶　二百九十三丁
　○挿花　仝
　○俳諧　仝
　○旅舘　仝
○料理店　二百九十四丁
○京都の産物　二百九十五丁
○京土産　仝
◉第四回内國博覽會
　附和田岬水族舘　二百九十六丁
◉紀念祭　三百十五丁

神珍 京都名勝廻覽記



藤田劍吾編次

山城國

延暦聖詔の如く山河襟帶自然に城を作し群巒東北西を圍み別に一小山脈南境を擁せり南は河内大和伊賀、東は近江、北西は丹波攝津に接し東西六里餘南北十五里許、加茂佳宇治木津の諸川其中を環流し淀河に會して西に注き名區勝境頗る多く舊祠古刹到處に散在し形象雄偉風光佳麗天下其比を見ず　神武天皇、天一目命を以て國造と

なし玉ひ　桓武天皇平安城を建玉ひて左右京職東西市司あり又國府を乙訓郡に置き玉ふ源頼朝京都守護を設け北條氏六波羅を創し建武年間大内を造營し官制舊に復せしも足利尊氏反して覇府を室町に開き應仁以後轂下大亂、織田信長之を平け所司代を置き徳川氏亦之に倣ひ二條城を築き政刑を掌らしめ享保年中稻葉正知を淀に封し世襲せり大政維新京都府を置き本州及ひ丹波（五郡）丹後を兼治す本州に乙訓葛野愛宕宇治紀伊久世綴喜相樂の八郡あり伏見宇治淀八幡等の名邑あり水澤土厚産物豊多、風俗儉勤都人は飲饌を約し服飾を喜ひ北部村民は素樸古風を存し氣候極寒三十一度より極暑九十五度に至れり

京　都

桓武天皇長岡宮城より使を遣はし此地を相し延暦十三年皇都を經營したまひ同十八年に落成し當時の民謳により平安城と名けたまふ今其大畧を叙んに東西千五百四丈南北千七百五十三丈にして大内裏は其北位に南面し宮殿官省其中に列り朱雀大路（今千本通）を以て左右京を分ち其南端の正面に羅城門あり爾後盛衰一ならず屢々兵革を經

て右京は全く荒廢し現時區域南北壹里貳拾餘町東西壹里數町市坊千七百餘ありて近年交通の便大に開け漸次殷盛の徴あり地勢平坦にして葛野愛宕兩郡に跨り北緯三十五度西經四度に在り三條通を隔て、上下京の兩區に分ち街衢整潔、山水秀麗、實に三府に冠絶し延暦遷鼎以降歴代の帝都たり明治二年　車駕東幸後も　皇居は依然として御卽位の大禮を擧させ玉ふ所と制定せらる特に本年遷都の、ち千百年の紀念祭を行ふに至れるは豈古今未曾有の一大盛事にあらざや

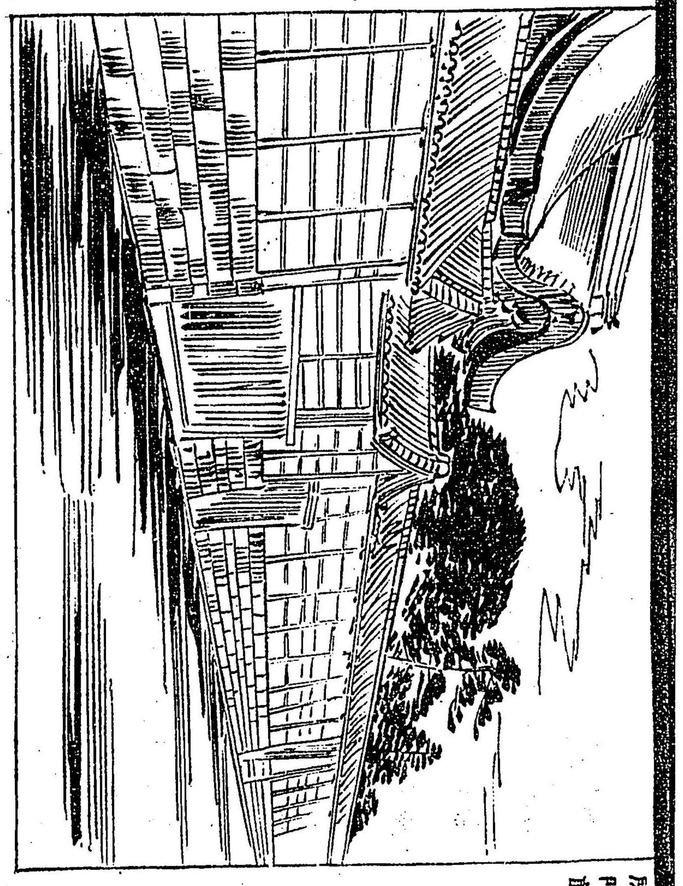
皇居　御苑

過ぎし昔時の事は說くも詮なけれど京都の變遷を知るには大内裏の盛事を語るも亦無益業にはあらじ其繁昌漸次西に縮み東に延びたればこそ千本は今都の西端となりたれ　桓武天皇平安京を奠め玉ひし當時は其を二分點として南北一千七百五十三丈東西千五百四丈の街衢中大内裏は其乾位に在りて一條より二條に至る四百六十丈東大宮より西大宮に至る三百八十四丈その間に十二門を設け朱雀門正の内に應天門あり門に對して朝陽堂あり堂後は

大極殿にして總て壯麗を極めたりき後福原遷都に及んで
廢頽し源右府の時閑院の内裏を造り北朝の初め土御門東
洞院内裏を皇居と定め應仁の亂後里内裏あり織田右府に
至り今の地に營み豐太閤の時規模全く備はる嘉永七年四
月炎上して現在の宮殿は安政二年德川家定の造營なり
今上 登極の後二年龍車東幸秋蕭瑟、三十六宮室 月明
南擧羽翠の時 の感あれど宮殿は依然嚴乎天外に拔で都城の北に
位し御苑には花も笑へば鳥も歌ふ太平の景瑞万古異るこ
なし東西六町余南北十一町四十間東を寺町通西を烏丸通北を
今出川通南を丸太町通とす地

坪廿五万四百六坪餘の四周に廣濶なる外郭を設け宮殿其
中心にありて南に向ふ南北千四百七十尺東西八百十尺面
積三万千九十七坪にして墻壁四方を擁し門闕巍々、御溝
其下を環り南に建禮門あり此を入りて南殿の前廊に設く
るを日華月華承明の三門とす紫宸左近の橘右近の櫻は今尙は昔の姿を留む
門内に在り清涼河竹吳竹今めかわり其西に東面す世に名高き賢聖障子
は此にありと聞けど莊嚴なる殿閣の遥なたに拜むばか
り尊さ彌増して内部の規模の曲折は神秘にして漏すべく
もあらざ其他の樓舍數多くして逐一之を記すの暇なし東

には建春門西には宜秋門あり北後を、皇后宮とし朔平門を設く南門の西に在を唐門と云ひ公家門御臺所門共に西側に在り又其外邊に土封を築き更に周圍に九門南を堺町北を今出川東を石藥師清和院寺町西を乾中立賣蛤とすを闢く蛤御門は即ち長人が君側の奸を除かんとて嵯峨より押し寄せ會藩と激戰せし所なり門今は西面なれども當時は南面なり其南に梅林あり暗香浮動月黃昏の妙は又一層なり今出川御門の西には垂絲櫻の古木多し近衞邸の櫻の馬場舊址なり堺町御門の西に往時を想遣る、大なる林泉の殘れるは舊九條家の庭なり久邇宮、主殿寮出張所、宗像神



所門前

社、測候所、等皆此あたりに在り京都地方裁判所も久邇宮の
北に在る白雲神社元西園寺家が北山に祀りし辨才天にて中葉此に
には蓮池あり夏の晨眺め清し畏多けれども一天万乗の我
今上陛下の御降誕し玉ひし地は　皇居の東北に在り鐵柵
の裏には御産舎昔のまゝにて祐の井の碑は早や苔むしぬ
天が下の臣民こゝ過りては誰とて涙こぼるゝばかりに嬉
しく伏し拜まぬはなし其東に藤の棚の紫の雲霞靄も愛た
し東南位日の御門の南に仙洞御所の舊趾並に林泉あり此處はか
しこくも　天皇の御位を譲らせ給ひて後遷りたまふ所な

り庭中四季のながめ深く喬樹鬱蒼として靜けさ限りなく上林中比なき風致なり維新後しばし衆庶の拜觀を允されたれど今は　皇居と共に御築地内には入るを得ざれそのみぎに京都府博覽會場あり今年は時代物美術展覽會を催して內國第四回の大博覽會と相俟て洛陽の光輝を放たんとす其東に美術工藝學校あり規模未だ大ならざれども有繋に京都は京都なり藝術大に見るべきものあり御苑の中今は車馬の往來さへ自由なれど昔は然らざ時世の變遷とはいふもの、往時御苑の彼處此處に甍を比べし舊公卿の第宅は皆とり拂はれて寂なく廣漠たる林苑となれり到處水清く砂白く遠近の小松原、芝生の手入れといき揃て加へて四季おり〳〵の景色絶ざ興新なり花は言はざもがな塵を避けて樹陰に涼を容るゝの快も亦然り月も好し蟲も好し雪は更に好し如意峯頭の大字火さては雪大字を觀るに此地を最好所とするに至ては都人の能く知ところなり

二條離宮　堀川西

永祿十二年建勳神禁裏守護の爲に造營する所なり慶長七年再修し德川氏の世は城番を置て之を守る王政維新暫く

太政官代を置き其後陸軍省の所管となり尋て京都府廳に充て後離宮と定められ且つ御苑内の桂宮を此に移したまふ結搆宏荘なり北は西陣に接し背後は千本通の郊野に属せり

桂離宮 葛野郡下桂村

正親町帝の皇孫陽光院の第六子智仁親王を請ふて豐太閤のおのが猶子となし八條の宮と稱し奉り爲に別墅を築く桂の離宮是なり書院林泉共に小堀遠州が其徒弟等と共に經營慘澹多くの星霜を費し技術の蘊奥を盡したる者にして

陂池臺榭、雅の極度、清の究竟殆んど人工に非ざるものの如し傳云ふ遠州の之を作るや豐公に約するに勞費を吝む勿れ成功を急ぐ勿れの三事を以てせりと知るべし其成巧の極れるを東、桂川に境し西、西山一帶を望み北は遥に嵐山に對す地域壹万三千百七坪の内池の面積二千卅四坪島嶼十餘あり林影水光相掩映して奇益奇、妙愈妙或は深沈或は平遠宛も仙寰の概あり建物總坪四百九十餘坪その彫刻繪畫は共に一代の名手を集む殊に此林泉は四方正面に築造したるものにして始め無く終り無く環の端なき如く何より見るも姿勢を成して變化窮りなし實に京都第一の

名苑なり故一品内親王薨去の後明治十六年九月離宮となる

修學院離宮 愛宕郡修學院村

名花異卉奇石佳木の形狀出處より臺殿亭榭の曲折刻畫柱楹窓欞より屏障の金具彫刻繪畫に至るまで桂離宮と共に所詮筆に盡し得べくもあらぜ唯だ此は高處に在るを以て風趣自から彼と異る中に上御茶屋五万六千坪餘下御茶屋三千三百二十坪餘あり上には八勝村路晴嵐、修學晩鐘、遠岫歸樵、松崎夕照、芽橋秋月、平田落鴈、隣雲夜雨、叡峯暮雪下には彎曲欄とて田植御覽の所あり又この離宮は承應年中德川家綱勅を奉じて營造せし所なり

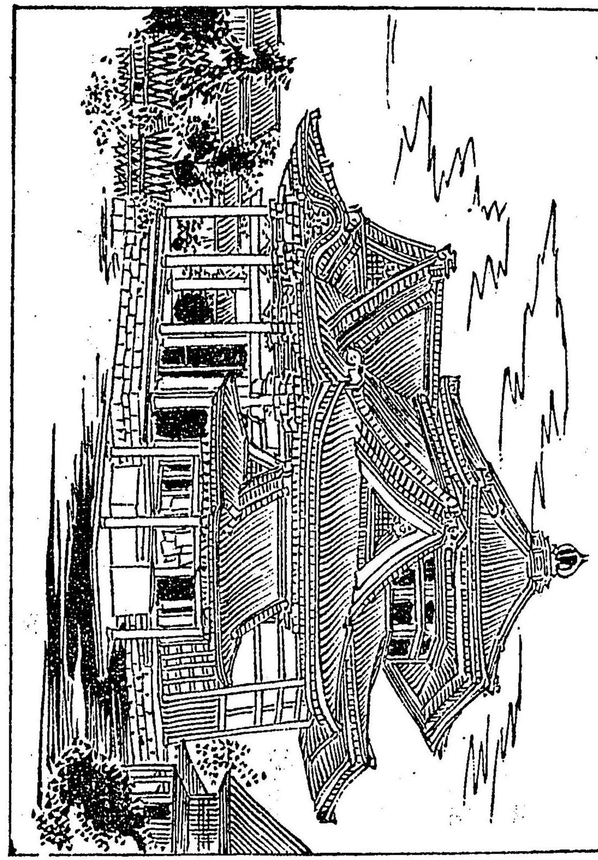
東山と鴨川

日本の一大公園と絶稱せらる、京都の風光も此山此水あれはなり是れ此に特筆ある所以なり

◉東山　洛東諸山に冠する總名にして北は如意嶽邊より南は稻荷三が峯までをいひ其中に三十六峯ありといへど何れの峯巒を指にや詳かならぜ山勢逶迤として温容あり鴨川を隔て、これを望むに花頂、圓山、靈山、音羽山、阿彌陀峯等翠を滴らし黛を展して人を迎ふの趣きあり且つ春花夏雨秋月冬雪の眺め皆宜しからざるなし故に古今文雅の士の賞詠少からざれども世の人口に膾炙せる服部嵐

雪が「蒲團巻て寝たる姿や東山」と吟せしは簡にして此山の全景を盡したらむかし

◉鴨川　又賀茂川と書し一名を鴨羽川或は東川といふ水源は洛北貴船に發し上下加茂に出で石川又蟬小川の名あり糺杜の南にて高野川と會し出町、御幸、木屋の諸橋を過き御屋川を容れ二條以下七條の橋を歷小枝橋の下流にて桂川と合す往時洪水汎濫し白河法皇は朕が心に任せぬもの、一に數へ玉へり二條以北には夏季より沙鷄、蟲の音の妙なる戛々の流と相和して耳を清し冬天には砂上に鹿角菜又は白布を曝すなど一層ながめ深し



三條大橋より南の方

㊂三條大橋　三條通鴨川に架せる木橋なり長六十三間幅四間餘欄干に紫銅の擬寶珠十八個あり銘に曰く「洛陽三條之橋、至二後代一化度二往還一人一、盤石之礎入レ地五尋、切石之柱六十三本、蓋於二日域一石柱濫觴乎、天正十八年庚寅正月日、豊臣初之、御代奉、増田右衞門尉長盛造レ之」今の如きは近年の改造に係る、そもや三條通は東國街道にして往來絶ゆる時なく殊に橋の東西には旅亭軒を竝べて觀光者の宿ること影し〳〵洛陽風景の隨一たる東山に最

近なるのみならず世に六角堂を京都の中央と稱すれど總て里程を算ふるには此橋を元標とするほどにて要之極めて利便なる地なれば橋畔の繁華なるは當然事なり

橋の西詰を直に南に行けば先斗町なり娼家酒樓の巷とは言はずもがな又東側を南へ進めば繩手通にして大和街道に出で祇園に到る

◉高瀬川　京都伏見間の荷物運送船の通ぜる所にして鴨川の西一町許に在り三條通に架たる石橋を三條小橋と云ひ四條五條等皆同じく小橋あり

◉瑞泉寺　（木屋町三條小橋下る東側）淨土宗禪林寺末開基　三室桂寂和尚　本尊阿彌陀佛脇侍觀音勢至　寺傳瑞龍尼公其子豐臣秀次追福の爲に建立す故に其法名を以て寺號となす　秀次悪逆塚本堂の前に在り石の裏には文祿四年七月十五日と署す世に畜生塚と云ふは誤なり　傍に婢妾三十余人の各法號を刻める石塔婆あり太閤記に秀次詮せられて高野山に自裁せし後其首を三條磧に梟し其前に於て婢妾三十餘名竝に幼兒を斬り同穴に埋むとあるは此墳也

◉新京極　（三條下る寺町の東）昔寺町通を京極と稱せしに對して名づけしものにして槇村府知事の時より愈々盛大を致せり市街狹けれども自から地利の宜きを得て四町許の間兩側は諸商店、割烹亭、劇場、寄席、雜技坊寫眞舘其他すべての見るもの聞くもの飲むもの食ふものに充滿され晝夜雜沓の狀東京の淺草大阪の千日前に勝るとも劣らぬ實に京都第一の繁華地なり往時數箇寺の境內にして今尚は縮少されながら餘影を處々に殘せるは却て今昔の感を增さしむ靈境碁域も斬く俗了せられてはそを知らせして過ぐる者あるさへ慨かはしき限なり

●誓願寺　（新京極通六角東詰）淨土宗西山派一本山開基惠隱僧都　本尊阿彌陀如來　寺傳始め南都に在り三論宗なりしが桓武天皇奠都に際し今の上京元誓願寺通小川の西に遷り藏俊僧正の時法然上人に隨喜して開祖とし改宗せり天明年間此地に徙され淀君諸堂を造營せしが元治の兵火に罹り其後現在の堂宇を再建す往古の境內は今俗地と化し世俗新京極を誓願寺と呼べり

◉和泉式部塔　（同所の南、東側）竹柵の中に在る長八

尺許り左右に彌陀及び廿五菩薩を刻める一基の寶筐印塔なり傍に軒端の梅でふ老樹あり古書に御堂關白の草創に係る京極今出川東北院の内なる誠心院の庭に式部の塔及び軒端の梅ありし由見ゆれば其後誠心院と共に此處に移せしものならん

●章魚藥師　（同所の南）本尊は傳敎大師の作と傳へ二尺許の坐像石造にして元永福寺に安置せしが中世圓福寺に屬せり同寺は淨土西山流深草派の一本山なれど近年燬ありて三州妙心寺と寺號を交換せり寺傳に昔寺内の一僧母に孝なり母病て蛸を求め乃ち買ひ來り將に食はしめんとして筐を開けば藥師經ありて章魚なし母の病忽ち癒ゆ是より章魚藥師とよぶ又一書に此藥師は水上藥師とも云ひ往古叡山北谷に在り其地水澤あるを以て澤藥師と稱せしを訛傳へしものならんと其名世に高く參詣者甚だ多し又同所の南に安養寺あり逆蓮華を以て名あり　後深草天皇の勅額を掲ぐ

○錦天滿宮　（同所の南錦小路）村社　祭神菅公　社記長保年間菅原院を源融公の遺跡六條河原院に遷し六條道

塲河原院歡喜光寺と云ひ天正中此處に移り當社は今の如く名づけ明治五年寺屬を脫せり攝末社中の鹽龍神社は融公を祀ると云　歡喜光寺は當社の南に接續せり時宗にして開基聖戒上人なり圓伊法眼筆一遍上人繪傳十二卷大に見るべし

●金蓮寺　（同所の南）時宗世に四條道場と稱す（寺畔の劇塲なり俗に道塲のしばいといふ）開基淨阿上人、維新前までは歷代此名を用ひ何代淨阿と稱せしとぞ　本尊阿彌陀佛その傍に安置せる親戀地藏は往時東山鳥部野に在り父母を失ひし兒童その前に哭す故に名くと　寺傳光嚴院御降誕の時淨阿の祈禱に依りて御安產ありしと云

●染殿地藏　（同所四條の角西側）元と金蓮寺境內に在り弘法大師の十住心論を著作されし所の本尊にして染殿后の篤く歸依し玉ひしより斯く呼ぶと云、傍に妙見堂あり

○祇園旅所　（四條御旅町、新京極南詰）八坂神社の御旅所にして南北相對ひて二社あり祇園會（祇園の大祭）の時神輿を七日間こゝに奉じ諸人群り詣す

●大雲院　（寺町通り四條下る東側）淨土宗　開基貞安上

人　本尊阿彌陀佛　寺傳上人は信長公の知遇を受け本能寺の變あるや小庵を營みて公の菩提を吊ひしが天正十五年豐公の命により信忠公追福の爲め當寺を建立し號を其法名に取る舊地は二條烏丸なり同十八年定額寺となる

本堂（正面大雲院の額は　後陽成天皇の宸翰也）其他開山堂千佛堂羅漢堂方丈塔頭等あり　織田信忠塔前面に大雲院殿二品羽林仙巖居士の字を刻す島津以久墓以久は日向佐土原藩主にして伏見に死す傍に殉死四士の墓及び同藩招魂碑あり

●淨敎寺　（同所南）淨土專念宗　中興忠譽上人　寺傳小松內府東山阿彌陀峯に精舍を營み四十八躰の彌陀を安し每日數百の燈を點す故に內府を燈籠大臣といひ精舍を燈籠堂と稱せり後再轉して此地に至る多くの佛像は故ありて法然院に遷し今の本尊彌陀は僅に其一なり又淨敎寺の三字額は　後小松天皇の宸筆なり　內大臣平重盛公之碑と題せる石碑堂前に在り故有栖川宮殿下の揮毫にして裏面の撰文は知恩院先住徹定師なり

●神宮敎京都本部　（寺町通四條下る東側）明治六年

伊勢大廟の大宮司本注宗秀　御分靈を奉じて當地に來り
同八年此地に大敬殿を建て次年御遷座式を行ひ神宮祭主
故久邇宮殿下其事を董せられ爾后數回御參拜あり同十四
年神宮遙拜所を新築せり大祭は十月十六十七兩日にして
頗る盛況なり敎莚は毎月數次之を開き專ら皇道の宣布を
謀る敎區は山城丹波丹後近江若狹越前等にして數百の敎
師と數万の信徒を總轄す又遙拜所敎殿ともに莊嚴典麗な
り　火除天滿宮　本部の所管にして附近に在り菅公を祭
り元は大雲院境内にあり火難除の靈驗あらたなりとて此

◉四條橋　永治二年はじめて架設し徃時は祇園四條橋
と稱し木造なりしが明治七年樵村知事之を鐵製に更む長
五十四間幅四間人車往來の繁き今は昔に數倍し且つ風光
一層宜し〳〵此鴨川の流に架せる他の諸橋に勝ること三十六
峯の眺得も言はれぬ四季の樂み何れ劣らぬ中にも磧の納
涼は四條の夕涼とて世に名高く多く古書にも見へて今も
尚ほ好興一方ならぬ橋頭試に頭を回せば遠く疊翠遙碧
近く燈影絃聲、去らんとして去る能はざるの餘情あらし

南座、祇園花街共に橋の東に在り南座は日本最初の劇場なり俗謠京の四季に「そして櫓のさし向ひ」と見へて昔は南北二座相對してありしが近年北座は市街擴張の爲め毀ちたり

◉五條橋　諸曲に牛若丸辨慶と挑み合ひ遂に主從の約を結びし所と傳ふるは此橋なれど今の五條通は卽ち昔の松原通にして古五條橋は松原假橋の北十間許に在りしと云ふ　嵯峨天皇の勅に依て架られ長さ七十四間幅四間餘、豐公の時此處に移せりと云へど紫銅擬寶珠の銘に據れば其後正保二年に改め架しものか慶長年間石造なりしが今は木製にして明治十一年の架設なり　積水寺を正面に望みて風景亦佳なり

五條郵便電信局、五條警察署相對して橋の西詰に在り東詰には旅宿屋多し

◉夕顏塚　（高倉通五條の北）源氏物語の夕顏は東山愛宕寺に葬るとあり且つ源語は一種の小說にして眞實あり難し事とも覺へされば此は別の婦人なるべし古は夕顏祠堂ありし由雍州府志に見へたり又夕顏藥師といふも

の寺町三條の矢田寺に安せり

御影堂　（五條通寺町西入南側）開基弘法大師　建立天長年中檀林皇后の本願　本尊阿彌陀佛　寺傳一遍上人の高弟聖阿上人中興して時宗と改む初の本尊は善光寺の摸像なるを以て新善光寺の名あり東洞院春日街より再轉して此處に到る

扇屋　坊中に古來扇を業とする家あり世俗に云むかし平敎盛の室蓮華院尼公此寺に閑居し阿古女扇を製せしと今尚扇は此處の名産也

△下京區役所　下寺町に在り其南に有名なる世繼地藏（上德寺）あり其他此附近に在るものは太子堂（白毫寺）開基忍性律師、本尊は聖德太子市比賣神社（下寺町東入元鹽竈町）祭神市杵島姬命、瀛津島姬命、湍津島姬命　延暦中多嗣公左右両京の市場に各一祠を建て守護神とす故に世人市比賣大神と云ひしは之なり境内に天乙眞名井あり

◉本覺寺　（下寺町五條下る東側）淨土宗　本尊阿彌陀佛　寺傳本尊は世に如法佛と稱し源實朝の室本覺尼公

の持佛なりし故に此寺號あり

●長講堂　（同所）淨土宗　本尊阿彌陀佛其外　後白河上皇宸影、花方觀音（平家物語にいふ所の花方の持佛）を祀る　寺傳　上皇の建創し玉ふ所にして元は西洞院六條仙院に在り臨幸の事あり曾て親から黥鬼簿を、かせられ近臣の菩提を弔ひ玉ふ當時著名の妓王妓女も其簿中に入られしとぞ此寺今は衰微せり

△眞宗大學寮　（高倉通　魚棚　上る富屋町）東本願寺派内の僧侶に布教上必要の學科を講習せしむる所なり寛文二年琢如上人渉成園内に創始し寶曆年中此地に移れり別に中學寮（東山今熊野町）あり普通學科を教ゆる所、新築にして總坪壹万四千坪許あり

●東本願寺　（烏丸通七條上る常葉町）淨土眞宗門跡大本山大谷派本願寺と稱す　開基教如上人　文祿初年　本願寺第十二世となり同三年故あり　退隱し後別に當寺を創す　創建慶長七年德川家康の台命に依り　後陽成天皇の勅許を得たり　寺傳（緣起沿革等は別項西本願寺の條下參看）創建以降文政に至るの間二回の火災あり再建の時

徳川家齊巨材を寄附し天保六年落成し安政五年又類燒す
會々宗祖の六百回忌に近きを以て假堂を建つ家茂又巨材
を賜捨す元治の變にも亦回祿に罹り慶應初年再建の綸旨
並に下賜金あり明治十二年工を起す次年又金錦の賜もの
あり廿二年大師堂、阿彌陀堂の上棟式を行ひ廿八年遂に
遷佛遷座式を擧ぐ先住嚴如上人慶應の初後嵯峨龜山両
帝陵(天龍寺内)を修して御衣直衣一領を賜ふ明治五年門
主を華族に列し十二年見眞二大字の勅額を賜ひ廿四年御
紋章を繡せる五條袈裟を下賜せらる是れ異數にして現如
上人(現住第廿二世)維新の際前住上人と共に王事に盡さ
れしに因る

大師堂　東面伽藍作り南北三十五間、東西三十二間棟
高廿一間四寸餘建坪一千百八十六坪　瓦數十七万五千九
百六十七枚、中央本尊阿彌陀佛　左右　先帝宸牌　今上
陛下聖壽寶牌　左壇聖徳太子畫幅、餘間　龜山帝宸牌
右壇、圓光大師畫影、餘間　六高僧畫影

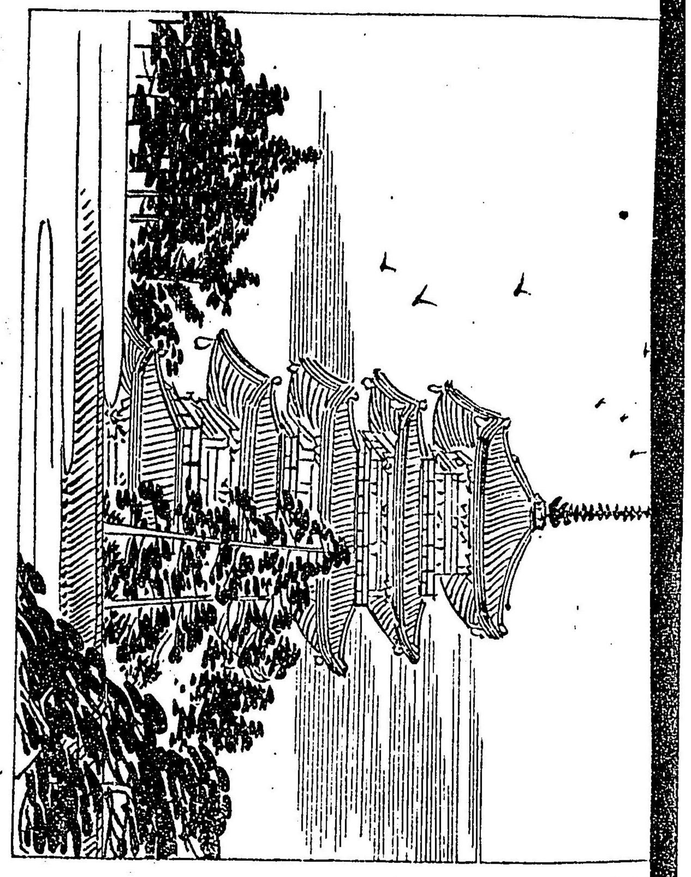
本堂　大師堂の南、東面、南北廿六間二尺四寸東西廿
一間五尺四寸棟高十五間二尺五寸建坪六百十三坪餘、瓦

數十万八千三百廿九枚、中央厨子宗祖見眞大師(自作)
左脇壇 前住上人畫像　右脇壇當寺歴代畫像　左右餘間
九字十字の名號
右二堂は即ち十餘の星霜を經て成功したるものにして微妙莊嚴兼ね備り美盡の奇至れり煩しければ今此に記さゝれども内陣外陣さては堂の外圍の楣間に至るまで其彫刻畫圖等一として當代の大家名工の手に成らざるはなし殊に大師の脚子の如き舊時の遺材を用ひたるよしなるが其壯大雄偉の結構に加ふるに典麗優美の粧飾を以てす人一

たび堂内に入れば唯だ呆然口を開て驚嘆するあるのみ、
其他舊假本堂は大師堂の北に在り其東に舊假大師堂あり
又其北に大寢殿、小寢殿、白書院、黒書院、鷺間及び能舞臺集會所等あり事務所は構内北方の一隅に在り又大師堂の裏面にも數宇の新築あり鐘樓は本堂の東に在り宏大潔清を極む名古屋市の豪家某の一人建立也

◉涉成園　（東本願寺の東、枳殻馬場　東玉水町）もと其四周に枳殻を環植し生籬とせしを以て世に枳殻邸と稱す
十丈紅塵の中に在りながら樹あり水あり古色蒼然忽ち深

山幽谷に入るの思あらしむる名園なり河原左大臣が鹽竈の風光を摸し浪花の浦より潮汐を運びて焚かしめし別業の遺跡にして寛永中徳川家光公宣如上人に與へ桃山城の舊構を移して石川丈山林泉の風致を修む其一部臨池亭の庭は小堀遠州の好みに出づ園中に滴翠軒、傍花閣、印月池、臥龍堂、五松塢、侵雪橋、縮遠亭（天井縁に賤岳七槍の柄を用ゆ）紫藤岸（後水尾帝の恩賜、岸の西南小嶼上に源融公の古墳あり）偶仙樓、双梅簷、嘯枕居、回棹廊、丹楓溪の十三景あり



●金光寺　（東洞院七條の南）開基空也上人　本尊阿彌陀　今は時宗世に七條道場と稱す

△七條停車場　（烏丸通七條南）明治十年成る其構造、荷物の集散、乘客の出入流石に屈指の停車場なり此より東寺に向ふ途中に稻荷旅所あり

●東寺　（八條通大宮西八條）眞言宗敎王護國寺八幡山と號し總持普賢院又左寺と稱す同宗管長の輪次法務を執る所　開基弘法大師　寺傳弘仁四年西鴻臚館（鴻臚館は大内裏時代外人を接待し玉ひし所を守敏に賜ひ西寺と

なし東鴻臚舘を大師に賜て東寺となし玉ふ大師新に灌頂院を創し傳法受戒の壇場とす　御影供大師承和二年三月廿一日高野山に入寂す爾來毎年此日（今は四月）修する法筵なり　創立以降地域等變遷なく建久中文覺上人再建す

南大門　（四ッ塚街道）總門なり廿年前は大なる樓門なりしが當今大佛舊門を移し再建中なり門内に八島祠あり

金堂　中央、藥師佛　四方、十二神將　東、日天　西月天を安す　南面二重瓦屋なり其北にあるは

講堂　本尊、大日如來　東、金剛波羅密菩薩　西、五大尊

其北にあるは

觀音堂　中央、千手觀音　西、地藏尊　東、毘沙門天（もと羅城門の樓上に在り）其北洗手舎の傍に矮松あり枝を四方に張り形笠に似たり又其北に四脚門　あり其北に蓮池あり又一町許に北門あり此間東西に子院數宇あり

大師堂　檜皮葺棟を工字形に組み中分して北に宗祖大師の像を厨子に安し南に護法神を安して護摩壇となせり傳云ふ大師の住はれし所なりと傍に經庫大黒堂御供所等

あり前に　桓武天皇靈牌堂あり新築に係る乾隅の二の
庫には藏する法器古文書の多き都下第一なり
灌頂院　境内坤隅に在り其北に在るは
方丈　構造清潔なり其前に毘沙門堂あり
五重塔　（境内巽隅）高さ三十六間五尺日本無比の高塔
なり天長三年創立し德川家光の再建なり
瓢箪濠　東境一帯の蓮池を云ふ燕子花も亦多し池の中
に古寶庫あり
釘なし倉　と呼ぶ木材を組立て釘を用ひず古代倉庫の
樣を存す
不明門　延元の役新田義貞奮戰足利尊氏を攻めし時之
を閉ぢ爾來開かざるとゝなり此稱起れり
本寺區域は市の西南端に在り屈指の古名刹なり老杉喬松
古色深沈として都下絶無の閑天地といふも過言に非ず避
暑には頗る妙なり御影供及び二季彼岸はもとより例月廿
一日にも亦遠近の參詣人群集して雜鬧いはんかたなし
◉羅城門舊跡　世に東寺の羅城門と稱し其南門の名な
りとするは謬なり案ずるに羅城とは京城外廓の意にし

て平安城の南大門たると疑ひなし今東寺南門の西二百五十間千本通の南端に字らいせうと呼は正く其遺趾ならん

○六孫王神社　（八條町）鄉社　祭神六孫王（源經基公）相殿、天照大神八幡大神　又多田滿仲朝臣祠　五所神社貞純親王祠あり例祭十月十一日　社記此地元は桃園と稱し貞純親王の邸ありし六孫王に相承し其薨ずるや此處葬に る社後の林中に在る一大石墳是なりと應和年間滿仲社殿を創し元祿年中大通寺（寶朝の室八條禪尼の建立初め當社を管す）南谷和尚幕府に請て再營し今大に修理を加へ美麗なり

◉西寺　（葛野唐橋村）嵯峨天皇西鴻臚館を守敏僧都に賜ひし靈地なれと今は一小刹なり

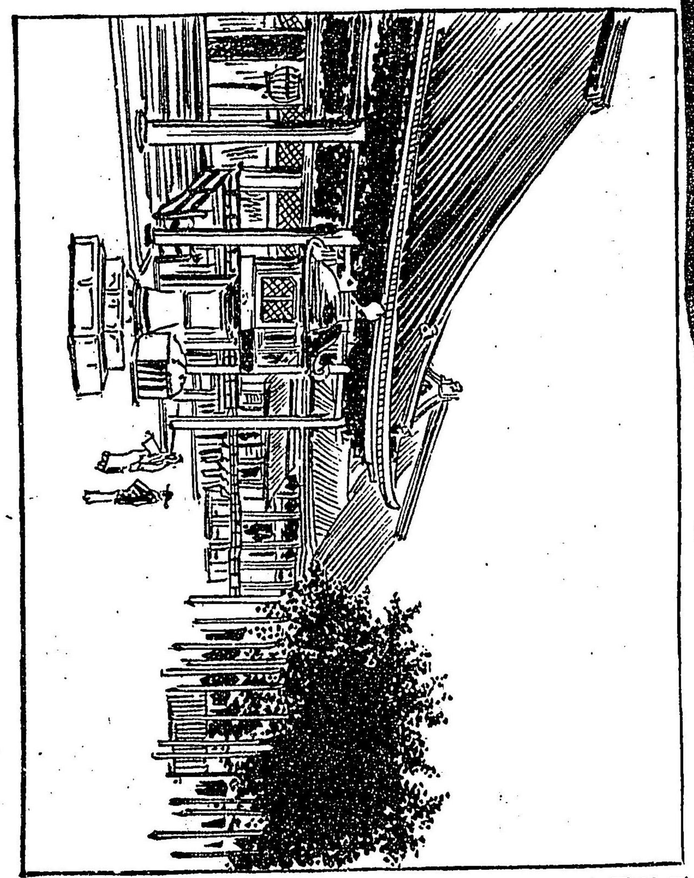
◉源爲義塚　七條通千本櫨現堂の前に在り

◉島原遊廓　（六條の西）寛永十八年此地に移る別に一廓を成せりむかしは四周に池を鑿ち其土を以て塀を築く恰も城廓に似たり偶々肥前島原の變あり誰が言初めしか遂に此名あり古來著名の遊里にして全盛舊時の如くならされとも今尚當市繁華の地に屬し毎年四月廿一日花魁

の行粧等あり

●壬生寺　（綾小路の西端）律宗　開基三井寺快覺僧都（故に小三井寺の稱あり）中興圓覺上人　創立正暦二年、本尊地藏菩薩は頗る名高し壬生狂言とて毎年四月大念佛を行ふ桶取、花盜人、紅葉狩等廿五番あり演藝奇古大に興あり

○西本願寺　（堀川通花屋町南入）眞宗門跡大本山　開基親鸞上人は日野有範卿の長子（承安三年誕生　弘長二年入寂　年九十）慈鎭和尙圓光大師等に隨ひ元仁初年常陸



四條畷古戰場

稻田に本宗を開き明治九年見眞大師と追謚せらる　中興第八世蓮如上人明治十五年慧燈大師の謚を賜はる　緣起龜山帝文永九年覺信尼、如信上人と共に一寺を創し久遠實成阿彌陀本願寺と號く知恩院の崇泰院は其舊蹟なり

沿革延元々年火災、曆應元年再造、寬政六年山徒に燒かれ大津近松に移り文明十三年山科に遷る天文元年兵火に燔け大阪の石山別院を本寺とす天正八年以後紀州鷺森泉州貝塚大阪天滿等に轉々し同十九年今の地に徙る　後柏原天皇大永元年第九世實如上人を門跡に準せらる慶長七

年第十二世淮如上人の時德川家康上人の長兄欵如上人の爲に別に一寺を建つ是れ東本願寺なり此より當寺を本派と稱す同十二年本堂再建、元和三年皆回祿、同四年本堂のみ成る此時從來の西面を東面に更む寛永十年第十三世良如上人大師堂建立（同十四年落成）寛延二年第十七世法如上人本堂改築（寶曆十年成功）現今の堂宇是なり　東西両派全國所轄別院六十余區末寺一万二百余宇門末相半ばせり

本堂　東西廿一間余、南北廿二間余　本尊、阿彌陀佛

左右　先帝宸牌　今上陛下聖壽寶牌　左脇壇、龍樹、蠻鸞、善導畫幅　右脇壇、天親、道綽、源信畫幅　右餘間圓光大師畫影　左餘間、聖德太子

大師堂　本堂の南に在り東西廿四間半、南北三十一間半棟高十五間　今上陛下宸翰見眞の額前楣に掲ぐ　中央厨子に見眞大師（自作七十二才の肖像にして大師示寂の後其茶毘の灰を塗る世に骨肉の眞像と云）左脇壇、前住上人　右脇壇、當寺歷代畫像　左右餘間、九字十字名號幅

大廣間　大師堂の後に在り廣さ三百疊、四脚門、車寄等、あり寛永九年德川氏の桃山城一部を寄附せしもの其他書院茶室能舞臺等ありは書圖彫刻等總て古名家の手に成る。滿翠園　（大師堂の東南隅）豐臣氏聚樂邸の遺物なり園中に飛雲閣（閣上に行儀の富士とて正座せざれば見へざる有名の畵あり其他古名家の書畵多し豐公の蒸風呂、清正の朝鮮土産片袖の洗手鉢等好事家の一粲を要す）滄浪池、龍背橋、踏花塢、胡蝶亭、嘯月坡、黃鶴臺、鹽雪林、醒眠泉、靑蓮の十勝あり十三重石塔滄浪池の畔に在り此地往古文覺上人の墓ありしと或は其塔ならむ又語合の松（臺所門前、末寺集會議場の庭中）は六條藏人仲家埋首塚の松なりと傳ふ冷泉爲尹卿の「あかなくの契や宿にしるからし千代を語らふ松風の聲」と詠めるより語合の名起れり

大學林　（寺の南、七條通の北）宏大なる西洋造にして方一町內に講堂、敎場、寮舍、經藏、土藏等あり大藏經二部外佛冊儒書史子文集等四千六百餘部及洋書四百餘部を藏す、

●興正寺　（西本願寺の南）眞宗一派の本山　開基經豪上人　創立緣起文明十八年弟經譽の佛光寺第十四世となるや山科本願寺蓮如上人に諮り別に山科に一寺を建て佛光寺の舊號興正寺を用ふ・沿革天文元年火災、經昭上人大阪天滿に移り天明十九年佐超上人天滿を別院とし今の地に遷る　正親町天皇永祿十二年門跡號勅許、其後大師堂舞馬の禍あり日下再建の經畫中、當寺は往時に比ぶれば大に衰頽せりと雖も近年全く負債を償却して着々恢復の途に就けりと云

本堂　東面、中央、阿彌陀如來　左脇壇、見眞大師畫影　右脇壇、當寺前僧正畫像　餘間南、當寺歷代畫像

▲駿內氏茶亭　（西洞院北小路の北）當家の祖先紹智其師千利休を諫めて戻けられ師の滅後本願寺良如上人の招に應じ此地に移り千氏の上流に對して下流と稱し茶道を敎へ相傳承す茶亭は古田織部の好みにして京坐敷と稱し大阪出陣の時當家に讓る所、左願右吩眼に入る數寄のかすぐ之をや風流閑雅の極と言はむ

●本國寺　（西本願寺の北、堀川松原南）法華宗一致派大本山大光山と號す　開基宗祖日蓮上人年三十二にして一宗を開き六十一歳武州池上に示寂七十年の後　後光嚴天皇大菩薩の號を賜ふ　二世日朗上人へ一宗正嫡の証として立像釋迦一体立正安國論一卷（宗祖の北條時頼に建白したる自書）赦免狀三通を附與せらるゝを當寺の三寶とす　創立建長五年八月　緣起鎌倉松葉ケ谷に最初轉法輪の法華堂を建つ　沿革　後醍醐天皇嘉暦三年　勅願所となり貞和元年　光嚴天皇の　勅に依り此地に移り舊地の例に從ひ東西二町南北六町を賜ふ當時の日靜上人は足利尊氏の外叔にして三位僧都に任せられ毎年參內して四海安全寶祚延長を祈るべき勅宣を蒙り一宗爲に振ひ塔頭百二十院ありしと　後花園天皇嘉吉寛正の頃は全盛時代にして天文五年天台宗と論爭して山徒の爲に都下同宗諸本山と共に燒かれ難を堺に避け十七年を經て歸洛の院宣を受け文祿寛永の兩度不受不施の異議宗內に行れて大に衰頽す是に於て世に中興の三師と稱する日重日乾日遠

首として恢復を勉め近年又宗勢の稍萎靡せんとするを憂ひ加州立像寺日輝大に革新の策を講ぜり堂宇は天明の大火に再び燔蕩せしも菊亭水戸家等緣故深きを以て再建の事成り易く現今猶三門假本堂祖師堂其他數宇の堂舍（其中經藏は火災前の建物）巍然として都下有數の大寺たり

本尊曼荼羅四軸輪寶、夕顏、若宮、鴛鴦（表具の絹鴛鴦の紋あり楊貴妃の袍衣なりと傳ふ世に本國寺切と云は之を摸擬せるなり）ともに宗祖の筆なり　方丈（即ち假本堂）西面、水戸黃門光國卿　筆妙法華院の額を掲ぐ足利尊氏之を創立し天正中安土城を移す現今の堂は享和二年の再建　人麿祠方丈庭内に在り紀貫之の勸請　履脫き石此地堀川御所義經の第たりし時小玄關に在りしと云　清正公祠（本堂の南）蹇詣者多し祠畔に夫人及其女の石塔あり　當寺所藏の清正朝鮮征討軍旗二流（一は白絹に題目七字朱書一は黑絹に白書）は時節柄一見するも亦妙　本堂の裏に瑞龍院の墓（龜薦堂の北に松永久秀蠶舍あり又塔頭瑞雲院に小早川秀秋の墓、吉祥院に赤穗義士專崎彌五郎の墓あり同院は日吉丸の潛居せし事あり昔時大閤部

屋と稱する一室ありしと云　同宗大檀支林（學校）境内の北に在り

○五條天神宮社　（松原通西洞院西）祭神天照太神　少彦名命　大巳貴命　社記　桓武天皇遷都の始め平安城鎭護の爲め造營し玉ひし所と云ひ古來醫道の祖神と稱し一に天使社と呼ぶ

◉醒井　（六條堀河の西）古來茶家の賞用せし名水にして義政將軍時々珠光の亭に臨みし時此水を吸み茶を點せり今は苔蒸して汲む人もなし

○菅大臣神社　（佛光寺通新町西）在昔菅原家の邸宅なり道眞公も此處に降誕し玉ひしと傳ふ境内に誕生水あり

○北菅大臣社　同所の北に在るを以て名く亦菅家の邸址也彼は昔白梅殿と稱し此は紅梅殿と呼びしと　祭神は是善卿なり

○文子天滿宮社　（間の町萬年寺下る天神町）文子は道眞公の乳母にして此地は其宅址なりと傳ふ

○玉津島神社　（松原通烏丸西）祭神稚日女命、息長帶日女命、衣通郎女　社記後成卿勅を奉じ邸地に紀州

和歌浦より勧請す往古社内に松樹多かりし故に松原通の名起る

● 因幡藥師　（松原通烏丸東）眞言宗　開基光朝禪師

創立長保年中　本尊藥師如來は碁盤の上に安す古書に釋迦の自作なりと云信州善光寺、嵯峨釋迦堂本尊と共に日本三如來とて名高し　緣起因幡國守　橘行平第を捨て精舍となし其子（光朝）を居らしむ仍て因幡堂と稱す　沿革高倉天皇承安年中平等寺の勅額を賜ひ足利義敎堂宇を再建し年を經る久しかりしが近代に至り改造して宏壯なり

● 佛光寺　（佛光寺通高倉）眞宗一派の本山汗谷山と號す　開基見眞大師建暦年間山科に一寺を建て　順徳天皇の勅願所となり興隆正法寺の額を賜ふ師の高足眞佛影海了海相傳へ　中興了源（第七世）元應二年寺を東山（今大佛殿の邊）に移す　沿革嘉暦二年佛光紫宸に映ぞるの異あり　後醍醐天皇阿彌陀佛光寺の勅額を賜ひ足利尊氏の新願寺となり寛正六年　後土御門天皇光敎（第十三世）を門跡となし玉ふ文明十八年第十四世の兄經豪別に今の興正寺を創す天正十八年豊公の命により此處に遷り天明八

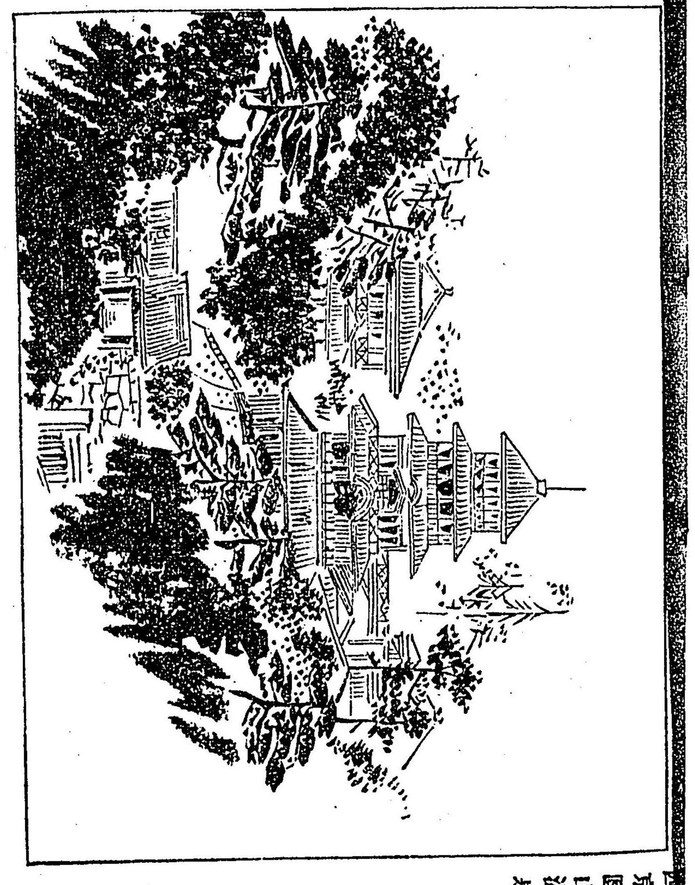
年火災、文化八年再建、元治元年再び燔け明治十五年新築せり

本堂　東面、中央、見眞大師　北脇壇、隨庸上人　南脇壇、了源上人　左右餘間、九字十字名號

阿彌陀壇　（本堂の南）中央、阿彌陀佛　脇壇左、聖德太子　右、法然上人　餘間南、三朝六高僧　北將軍家歷、世の木主

●空也寺　（寺町通佛光寺下る夷の町）開基空也上人

建立天祿年中　中興見譽和尚　本尊彌陀佛　沿革初め錦



四京圓山溫泉

小路西洞院に在り念佛宗なりしが今は淨土宗となる

●鉢敲堂　同上人の開基にして四條坊門油小路西に在り

●黒雀寺　（四條通大宮の西）淨土宗西山流　本尊阿彌陀佛　寺傳延暦帝勅願所にして　後醍醐天皇重修を加へられ其後淨春上人再興す始め勸學院の遺跡に在り其地に大樹ありて諸鳥群る雀の森の名之に起因せしならん

●地藏堂、實方朝臣塔境内に在り

●六角堂　（六角通烏丸東）天台宗頂法寺と稱す西國札所の一なり　寺傳　用明天皇二年聖徳太子の建立、延暦

奠都の時此堂小路に當るを以て少く北に移す　嵯峨天皇勅願所となし玉ひ　花山天皇行幸し玉ふ（西國順禮の權輿なりとぞ）見眞大師が一宗を開きしも當寺に詣して夢中の感應ありしに由ると　本堂南面、六形造り故に世俗六角堂とよぶ現今の堂は明治十年の再建　中央、如意輪觀音、脇士地藏毘沙門　池の坊（本堂の後）花道家元の號を足利義政より允され文化以後御即位立后の大禮ある毎に立花を献るの例なりしと

京都郵便電信局　日出新聞社共に三條通東洞院に在り

三條通り北の方

●矢田地藏　（寺町通三條の北）和州矢田金剛山寺の別院京都六地藏の一なり世に矢田地藏と唱へて名高し

●天性寺　（同所の北）開基眼譽道三上人　淨土宗　本尊阿彌陀佛　境内清潔建物も亦見るべし

●本能寺　（寺町姉小路北）開基日隆上人　建立四百卅二年前　法華宗勝劣派本山　沿革もと六角の南油小路の東に在り即ち信長公戰死のところ後此處に移り數次火災に罹り今は昔の如く盛ならず　信長公石塔は境内の東隅

に在り長敷尺總見院の法號見ゆ　寶物信長所有陣太皷、
龍丸所持槍穗廣國作九寸錆たるは夜討の敵を突たるもの
ならんと云　宗祖日蓮上人　筆　題目曼荼羅は世に其表裝
を摸し本能寺切とて名高し
△議事堂　（寺町通押小路）京都市會の建築にして今年
落成その東に常盤ホテルあり著名旅亭なり又其南に天主
堂（耶蘇舊教會堂）あり共に宏大見るべし
㊦妙滿寺　（寺町通押小路北）開基日什上人　建立永德
三年　法華宗勝劣派總本山　沿革始め綾小路堀川の西今

の妙滿寺町に在り　本堂祖師堂方丈等なか〳〵に盛大な
り　古鐘（高二尺九寸五分徑二尺二寸厚二寸正平十四年
己亥三月十一日の銘あり）は諸曲などにて能く人の知れ
る紀州道成寺のものなり數度回祿に罹りたる痕跡見ゆ
㊦專修寺別院　（河原町通二條上る清水町）眞宗野州高
田山の懸所なり　本尊阿彌陀佛內殿の一光三尊佛は延享
二年　櫻町天皇本山の本尊を迎へたまひ同寸尺の摸像を
刻せしめ崩御の後當院に寄贈たまひ毎年六月十一日より
七日間開帳あり

●革堂　（寺町通竹屋町北）天台宗　開基行圓上人（常に鹿の裘を着て勧進す故に革堂と呼ぶ）本尊十一面千手観音　西國巡禮十九番の札所　本堂世三所觀音堂不動愛染明王堂妙見堂等あり

○下御霊神社　（同所北）祭神崇道天皇、伊豫親王、藤原吉子、橘逸勢、文屋宮田麿、吉備眞吉備、藤原廣嗣、菅原道眞（以上八座本殿古例に依り天明八年の大火後内侍所の舊殿を賜ひし所）相殿に天中柱皇神（靈元天皇の神號）を祭るは御遺詔に從ふとなり其他歴朝の崇敬故例祭式社格等は下條の上御霊に詳悉なり

△高等女學校　（土手町）校規肅整の名聲あり

△療病院　（河原町荒神口北）京都府立の病院なり

△師範學校　（寺町通廣小路上る東側）府立なり又其北に同女子部あり相去る遠からず

●廬山寺　（同所北）天台宗　開基慈惠大師　本尊藥師は攝州四天王寺建立に當り疫病流行せし時聖徳太子作りたまひ靈驗いちじるしく世に小屋の藥師と呼ぶ

●淨華院　（同所北）開基慈覺大師中興圓光大師　淨土

宗四本山の一（本尊阿彌陀佛脇士勢至、觀音　大師堂は目下再建の計畫中にて續々信徒の寄附金あり大師像は假に大方丈（新築）に安置す　沿革初め天台宗、のち勅に依て烏丸の西より此に移り改宗せり歴世高僧出て御戒師となりしと多く朝廷の待遇一方ならざりしと舊記に見へたり今も境内廣く此あたりに稀に見る所なり　智證筆不動は泣不動として有名なり事宅間の繪緣起及び狩野永納の寫卷に委細その繪卷も亦甚勢非凡

●本禪寺　（同所北）開基日陣上人　法華宗一本山　本尊立像釋迦　祖師堂經藏等なか〳〵莊嚴にして境内や廣く且つ淸し

○梨木神社　（同所西側淸和院御門外）祭神贈右大臣從一位藤原忠成公（今上陛下卽位の二年十二月　詔して此諡を賜はる公　諱は實萬故三條內府の父）光格　仁孝　孝明の三朝に歴事最も　孝明天皇の知遇を辱ふせらる故久邇宮朝彦親王其才德を稱し給ひ諸有志と諮り明治十八年八月創立の官許を得官幣に列せらる梨木神社と號るは此地もと三條家舊邸地にして梨木町とよびしに因れり

風、致喬木稚樹柯を交へ白砂青巒掩映の狀や、愛すべし

●本滿寺　（寺町通今出川上る）開基日秀上人　法華宗一致派　近衞左大臣道嗣公深く本宗を歸依し其別業を精舍となして一子（日秀）を之に住せしむ後今の處に遷る

●阿彌陀寺　（寺町鞍馬口）淨土宗　開基清玉上人　本尊阿彌陀佛　織田信長信忠二公の墓並に本能寺忠死者の墓あり天正年中上立賣大宮の東より移轉の時改葬せしもの、と云これ上人の二公に歸依せられしを以てなり

●上善寺　（鞍馬口通小山口）淨土宗　開基春谷盛信上人　本尊阿彌陀佛　地藏堂（京都六地藏の一）再建の計畫中なり

○上御靈神社　（鞍馬口通御靈竪町）祭神本殿は下御靈に記せり　相殿は小倉實起外三座　若宮は菅原利子　社記後陽成　後西院二帝より鳳輦を給付したまひ靈元帝二回御幸殊に維新前は例祭に神輿今出川御門を通過の際　陛下親しく朔平門内より御拜あらせ玉ふ　樓門拜殿鳳輦庫等備はり目下修理中なり

●相國寺　（今出川御門の北）開基夢窓國師　臨濟宗五

山第三位、萬年山と號し相國承天禪寺と云ふ永德二年後小松天皇の勅を奉じて足利義滿の建立　現今は往時に比し其半にも及ばざれども尚城北に冠たる一大古刹たり

總門南向（今出川通）御幸門その西に並ぶ門內茶圃は往時の山門跡又其北の松林は古佛殿の在りし所　寶塔その西に在り二層樓にて　後水尾天皇承德二年の御建立にて御齒髮並に佛舍利三顆を納め給ふ天明大火の時は恙なく他に遷し萬延元年再興せり　本堂二重瓦屋卽ち秀賴建立の舊法堂なり東西十四間半南北十一間中央に釋迦左右に阿難伽葉左右壇に夢窓國師足利義滿の像を安く　祖堂（本堂の東）文化四年恭禮門院の舊殿を賜はりて建立せり前面の圓明の額は　後水尾天皇の宸翰內龕に夢窓國師の像を安す襖の畫は圓山應擧の筆　方丈（本堂の北）東西十四間南北九間本堂祖堂等に通ふ覆道を塗廊下といふ　選佛場（祖堂の東北）卽ち僧堂文政年中の建立にして普明國師の廟所なり

淨域　蘇東坡の所謂一見二洞中天一眞知二世間惡一の概あり三面　綠竹　林をなし幾多の老松翠蓋を垂て別天地を造

れるもの、如し風致自から禪味に富める知るべきなり

▲同志社　（相國寺門前町）故新島襄氏の創立せし有名なる學校にして多くの洋館巍然たり普通科の外諸科の專門部あり其他同志社女學校書籍館病院等皆程遠からざる處に在り

▲華族會館分局　（御苑の北今出川通）館は元と德大寺家の邸なり

●妙顯寺　（小川頭）法華宗一致派本山具足山と號す開基日像上人　本尊釋迦立像（長三寸の黃金佛宗祖の持尊）寺傳　後醍醐天皇の勅願所にして當地にて同宗弘通の元始なり天正中豐公の命により今の地に遷る　寶物中最も尊きは宗祖の筆に成る經一丸（日像の幼名）の曼荼羅獨錦の曼荼羅等なり　本堂祖師堂鬼子母神堂方丈其他の建物巍々として市北の一巨刹なり　前田利光石塔本堂の北に在り當寺の大檀越たるを以てなり又當寺に光琳の墓あり

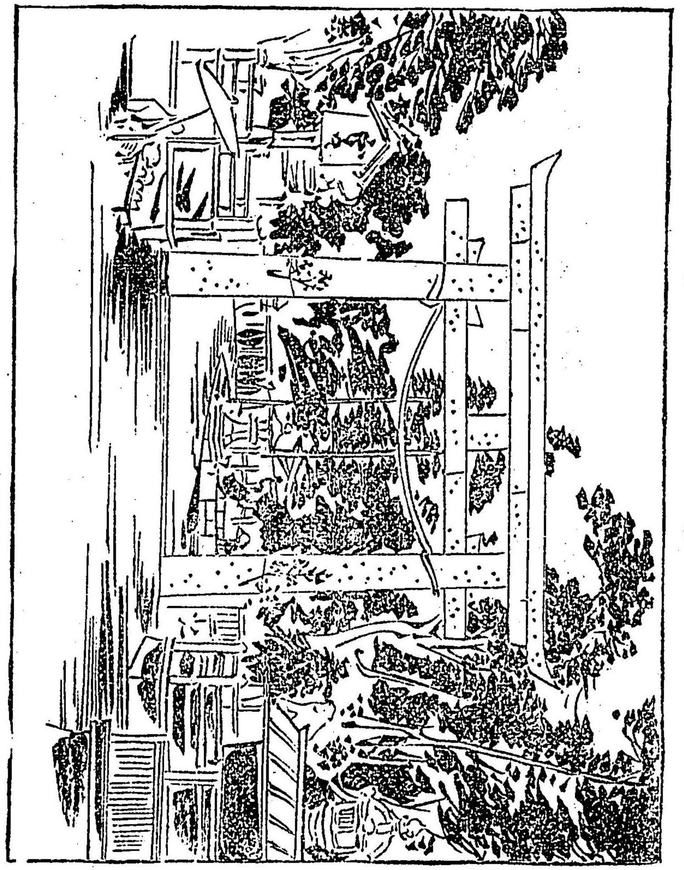
●妙覺寺　（新町頭）宗派山號とも同上　開基日實上人寺傳小野妙覺といふ者居宅を棄て寺とす故に此寺號あり

狩野古法眼墓本堂の西北にあり

●本法寺　（新町頭）法華宗一致派　開基日親上人　本堂、開山堂、方丈（庭に日親上人説法石あり）寶塔樓門等完備せり

▲千氏茶亭　（小川の北本法寺の前）今日庵と號し風流を極む千氏は世々茶道を以て名あり世に上流と稱し藪内氏の下流に分つ利休の孫宗旦の子宗佐以來宗佐を以て家名とせり

●報恩寺　（上立賣小川西）淨土宗　開基明泉和尚　中



西京北野神社

興慶尋上人　本尊阿彌陀佛　創立明應年中　鳴虎明陶俳の筆聚樂亭に於て聲を發せしとて名高し

●妙蓮寺　（寺の内堀川西）日蓮宗　開基日像上人　本尊釋迦多寶　宗祖自筆の曼荼羅は祈雨の本尊とて宗祖が大菩薩の號を勅許せられし由緒あるものなりと云

●瑞龍寺　（堀川通今出川下る）法華宗唯一の門跡世に村雲御所と稱す　寺傳關白秀次公の母瑞龍院殿公の菩提を弔ふ爲めに尼となられし所にして中世以來攝家の尼公住持せらるゝこと例となり、現今は日榮尼公住はせらる

昨年秀次公三百年忌を行はれたり

◎堀川　京都の中部を南北に貫流する小川なり北は一條戻橋に起り南は上鳥羽に至り鴨川に入る其間里餘春米染布等に水を利用する者多し近時二條以南松原に至る間岸柳櫻を栽ゑ風致を添たり

◎西陣　一條通堀川西北の地數町のあだひを云ふ明徳年中山名細川両雄兵を交へし時堀川の西を西陣と呼び即ち宗全の陣せしより起る織物に有名なるは夙に世人の知る所なり

○白峯神社　（今出川通堀川東）官幣中社　祟徳　淳仁の両帝を奉祀す　攝社伴雄神に源爲義爲朝父子を祭る

社記　先帝幕府に命じて下加茂川合社を摸し新宮を此地に造營せしめ　祟徳天皇の靈を慰め玉はんとし未た祭典を擧ぜして崩御したまふ　今上その御遺志を紹せ玉ひ慶應四年八月勅使を讃州白峯陵に遣はし神靈を迎へ尋て明治六年十二月更に勅使を淡路天王森の山陵に發し　淳仁天皇の神靈を迎へたまふ又境内に地主稻荷の二社あるは此地もと飛島井家の邸ありし時より祀れるものなり　例

祭八月廿六日（崇徳天皇崩御の日）

◉戻橋　石橋にして堀川一條通に架せり傳へ云ふ昔三善清行の子浄藏この橋上にて父の喪に遇ひ棺を止めて祈念を凝せば不思議や父蘇生し共に家に歸りしより斯く名けしとぞ又安倍晴明十二神將を橋下に鎖して事を行ひ世人は此に吉凶を占ひたりと一書に見ゆ往時戻の名を忌み初めて嫁く者の之を渡らぜ旅立には其名を愛此處よりせしも可笑

◉本隆寺　（智恵光院通五辻の北）法華宗勝劣派、開基日眞上人　祖師堂の南に日像上人自筆の題目塔あり

◉聚樂城舊址　一條の南、二條の北にして東は大宮、西は千本通を限れり往古聚樂組と稱するところ數十町に亘り町數百二十ありしと云ふ聚樂城の壯麗なりし事は太閤記に詳細なるのみならぜ現時往々寺院に存在せる其建物の一端を見ても全体を想ひやらるべし蓋し文祿四年秀次滅亡の後毀ちて多くは各所に散布せり

○七野神社　（大宮通廬山寺の北）創建貞觀年間、祭神巻日、高砂、伊勢、八幡、賀茂、松尾、平野、稻荷の諸

神　沿革昔は朏地東西五町南北三町余神殿も亦壯大なり
寛政二年帝室より下賜金ありて假殿を營み今日に至る

◉引接寺　（千本通鷹山寺上る閻魔前町）眞言宗新義派
開基定覺上人　建立寛仁年中　本尊閻魔大王　本堂建立以來殆んど八百九十年を經たる古刹なり壁に狩野光信筆冥府地獄極樂の圖あり　紫式部墳境内に在り　大念佛俗に千本大念佛と唱へ古來著名なり寛仁年中定覺上人初めて之を千本、壬生、嵯峨の三ケ所に行ひ爾來例年之を修し詣參者群集す

◉般舟三昧院　（今出川通糸屋町の西）天台淨土眞言律四宗兼學　開基圓慈和尚　本尊阿彌陀佛　沿革文祿年間伏見より此に移る　後土御門天皇の勅願所にして禁裏内道場に擬へられ御歷代の聖牌を奉安せしと云　後土御門帝塔本堂の西に在り御分骨所なりとも云

◉清和院　（北野七本松一條北）眞言宗　本尊觀音地藏寺傳清和天皇貞觀年中こゝに大齋會を營み玉ひ元慶年中伊勢尾張の租を寺封となしたまふと

◉本光院　（元誓願寺通七本松西入東今小路町）天台宗

眞盛派門跡、創立天正年間織田信長公の本願、本尊地藏は公の持佛、寶永年中日心尼の再興以來尼公の住職例と
なりしかば世に比丘尼御所といふ

○北野神社（北野）官幣中社　祭神菅原道眞公外に中將殿（菅三品嫡子）吉祥女（菅公室）宰相殿（四世孫輔正）和泉殿（六世孫定義）社記天曆年中七條猪熊より此地に遷祀し　一條天皇正一位大政大臣を贈り給ひ官幣に與かり行幸の事はじまれり爾後朝家の崇敬尤も厚く創祀より今日に至る九百有餘年屢々回祿にかゝり十數次の改造あり

現在神殿は慶長年間豐臣秀頼の命を奉じて片桐且元の改建せし所、官祭八月四日、祭十月一日及四日俗に芋茎祭と稱し芋莖を以て神輿を作り種々の菜蔬を集めて巧に之を粧ふ實に一奇觀なり　毎月廿五日は雜貨店遊技場到處に充滿し熱鬧一方ならず詣者の多き全都に冠たり　寶物中最も見るべきは天神緣起八卷藤原信實の畫にして稀世の逸品なり

南石鳥居を入れば路の兩傍石燈籠幾百といふとを知らず其東に雪見丘あり西南に豐公の茶會を開き細川幽齋

の點茶せしといふ松向軒の跡あり井のみは今尚遺れり又
岡の西北位に當れる檜皮葺なる
南門　を入れば西傍に書馬堂あり書畫詩歌連俳等數多の
匾額中南都大祭の圖及び能の圖は最も偉大にして著名な
り神庫寶庫近きに在り
中門　南門の北に在り　後西院天皇宸筆天滿宮の額を掲
ぐ世に勅額門と云又梁間に日月星を彫刻せるを以て三光
の御門と呼ぶ其北なる
拜殿　は南向檜皮葺北は本殿に接し左右廊架にて中門に
續く廊の東西に各小門を開けり
本殿　八棟造り白檜材を用ふ欄間の花鳥は左甚五郎の作
と傳ふ內殿の莊麗いはんかたなし
境內　は南北に廣く東西に狹し滿地古色鬱蔥として天を
蔽へる松杉の間には紅白の梅花を栽ゑ殊に西紙屋川に沿
ふ堤の上下には數百千株の梅樹竹林の間に映じて妙いふ
べからざ

●觀音寺　（北野神社の南）眞言宗　山本左大臣の創立
本尊觀音嘗公の作といふ東向　觀音として名高し

◉立本寺（七本松通仁和寺街道上る一番町）法華宗一本山　開基日像上人　建立元亨元年　寺傳第廿世日審上人の時　後水尾法皇篤く歸依あらせられ親臨して法華經全部の講演を聽聞し玉ひ且つ一字を建て園林堂の三大字を下し賜ふ

◉名和長年戰死碑　一條室町に在り近年有志相謀り一基の石を建て其遺跡を表せり

◉神泉苑（御池通大宮西入北側）桓武天皇大内裏の禁苑中今日に存せるもの唯此一小池あるのみ當初境域廣くして二條の南三條の北大宮の西壬生の東を限り方八町の林泉にして弘仁三年池邊の乾臨閣に觀花の御遊（花宴節會のはじめ）あり貞觀年中疫神を此池に送られ（祇園御靈會の濫觴）其他弘法大師の龍神に祈り小野小町の歌を詠みて雨をふらすなどの故事多く古書に見へたり神泉苑の北に二條離宮（別項を見よ）あり離宮の西に出世稻荷北に監獄署（往古大極殿の故址なりと云）養蠶場、京都紡績會社等あり

△京都盲唖院（釜座椹木町）正面に掲たる槇村前知事

揮毫の日本最初之盲唖院の區額に詐りなし

△京都府　（同町下立賣）京都尋常中學校相接す此より程遠からざして中立賣に至れば上京區役所、同高等小學校、警察署等あり

○護王神社　（烏丸通下長者町南）別格官幣社　祭神贈正一位和氣廣虫朝臣、贈正一位和氣清麿朝臣相殿に贈正一位藤原百川公、贈正三位和氣廣虫朝臣、路眞人豐永朝臣を合祀す　今上陛下明治七年和氣公の忠烈を追賞し高雄山より其神靈を遷し玉ふ是より先嘉永四年三月十五日護王大明神の勅號を賜ふ

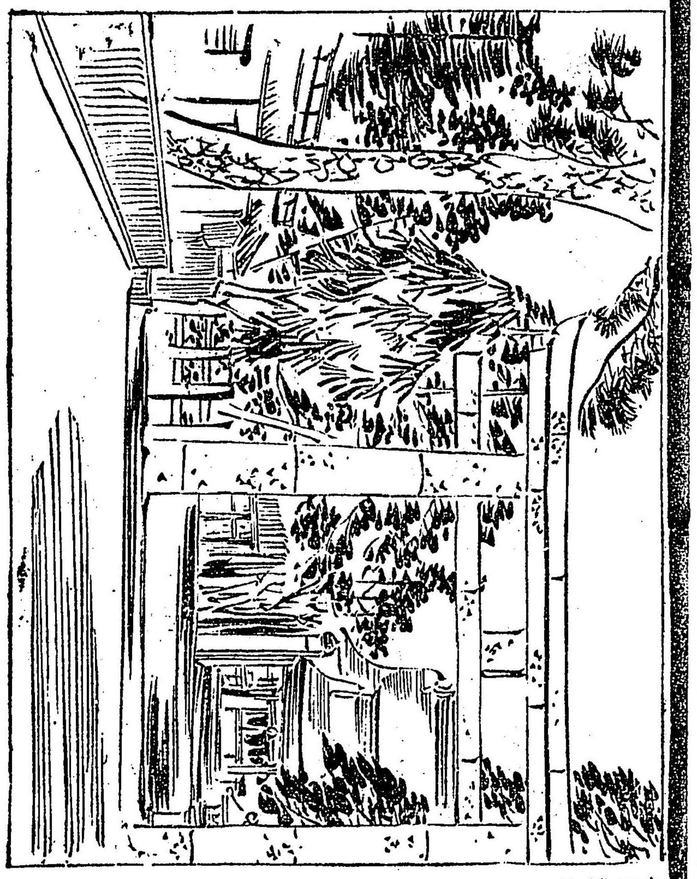
○宗像神社　（界町御門内の西北）府社　祭神田心姫命湍津姫命市杵島姫命相殿に天石戸開神　社記　清和天皇此處に生れ玉ひ　花山天皇の時皇居となり花山院と稱す後左大臣家忠に傳はり貞觀並に延治年中位階を授けられ官幣に預る例、祭九月十五日

三條橋より東南

◉祇園遊里　京の祇園と云へば江戸の芳原と云ふより其名世間に聞ゆ遊里の組織も彼とは大に趣を異にし他の商家も雜れり、大石良雄が遊興せしといふ一力亭あり例年

三月二十日追善を營むと云ふ地、八阪神社に參詣する通路なるを以て一層繁華なり南側の裏に女紅場（明治六年の創立にして藝娼妓に裁縫其他諸手藝を敎ゆる所）あり其西に歌舞練場あり此區の藝妓が各々華奢を綺羅びやかに得意の歌舞三絃に鼻たかゝと鳴り響く菩薩の妙なる音樂に轉た風流男の腸をしぼらしむ都踊も此に開かる京都第一の劇場祇園座は其南に在り

● 仲源寺（四條通大和大路東入）淨土宗　本尊地藏菩薩　世に雨止地藏と稱して名高し俗に目疾地藏と訛傳眼病の靈



驗あらたなりと傳ふ

○八阪神社　（祇園町東端）官幣中社　祭神素盞雄尊、八王子、奇稻田媛命　社記聖武天皇天平五年播州明石浦に勸請し貞觀十一年藤原基經公帝城守護の爲とて感神院（今尚は社内の石燈等に此字を刻せるを見る）に遷座し奉り其後紫宸殿に摸して別に社殿を建て神輿を藏め之を精舍と名け因て祇園の名も起れり同十八年六月七日十四日疫神を神泉苑に送る其後年々例となる是世に名高き祇園會（今は七月十七日廿四日）なり明治元年八坂神社と更む

西樓門（祇園街の正面）前の石階を上れば丹青金碧最も
莊嚴なる宮殿造りの建物あり即ち本殿なり現今の社殿は
承應三年徳川氏の改築、其西に繪馬堂あり繪畫の額其數
多き中にも長谷川新之丞筆大黒布袋角力の圖、海北友賢
齋筆仁田忠常斬猪の圖、湯淺亦兵衞筆諸侯行裝の圖等最
も有名なり寶庫には無數の古文書神寶樂器等あり南樓門
は明治十二年の再建、其南に石華表、其北に拜殿（同七
年の再造）あり又社務所の庭内に忠盛の燈籠あり祇園女
御舊蹟は本社の巽の方（今の大雅堂の向に當る）にあり世
に女御田といふ

當社境域は東山谷勝區の中央、圓山公園の下に在りて四
時のながめ絶ゆることなく神徳の顯著なること古今異ら
ねば人の參詣も常に絶へざ且つ此地は古歌に千代の松原
と詠し名所にて本殿の下には深幾尋といふことを知らざる
古池ありと云ひ傳ふるは冷泉爲家卿の歌に池の稚藻など
よめるに照して强ち根なし草の話にもあらざるべきか
祇園會　何の事はなし日本一の大祭なりと知れば足
れり昔より江戸の山王、神田明神さては大坂天神の祭

禮も及ばぎ今は山鉾の數一國一本づゝを出したる往時と同日談ならねど亦他に比ひ稀なる偉觀なり委細は世に此祭禮の事のみを記せる書冊あり

◉圓山公園　東、圓山の麓を占め西、八阪神社に接し智恩院の南、東大谷の北一帶の地をいふ卽ち古の眞葛原是なり近年大に之を開き畧平坦とし花卉を栽、泉石を配し人工を以て化巧を補ひ極めて趣致ある園囿なり園中元一株の老垂絲櫻あり毎年彼岸前後花咲初千枝地に低れ萬珠纓を穿ち風光斜ならず都人士女宴を其下に張もの群

集せり且夜に入れば月の如き電燈、雪の如き花を映しながら雪月花を一併に看の概あり甚た奇絶なりされば黃昏より初更の頃絲肉相和し賓主興闌にして酣歌醉舞宛然太平の象あり世に傳へて祇園夜櫻と稱し東山第一の美觀とす又園の東に平野舍、牡丹園、也阿彌、左阿彌等和洋の易牙家あり山腹に温泉場あり皆遊人を歡待せざるなし是れ該園の大概にして現世の樂土と謂ふし

◉長樂寺　（丸山公園東南隅）時宗、本尊十一面觀世音延曆のむかし傳敎大師の開基にして元は天台宗なり文治

年間建禮門院當寺に於て御落飾遊ばされ　安徳帝の御冥福を祈り玉ふ此地の景色唐の長楽精舎に似たるを以て長楽と名づく星霜を經て大に荒蕪せしを近年漸く本堂、鐘樓を建て古來風流韵士の吟詠に上りし鐘聲を聞も亦近きにあるべし後山に頼山陽、浦上春琴、長澤芦雪、武元登々菴、水野直躬等諸名士の墓あり

◉安養寺　（圓山の麓）初め天台今は時宗　開基傳敎大師　中興慈鎭僧正にして往古諸堂甍を並べ法燈上人も吉水庵てふ所にて勤行されしも今は僅かに其庵室辨財天祠、吉水井を剩のみにて好古の士をして追感に堪ざらしむ

◉智恩院　（東山）淨土宗總本山にして一に東山大谷寺と稱し華頂山と號す　開基宗祖圓光大師　創立承安五年沿革往古此地に慈惠大師の建られし南禪院といへる佛刹ありしが慈鎭和尚より宗祖に附せられ傳道布敎の所となり文暦元年　四條帝の詔にて殿堂を改め勅願所となれり其後永享三年及び應仁二年回祿し當山廿二世周譽上人兵亂を近江伊香立に避け文明十年これを再建し永正十四年再び烏有に歸し　後柏原帝勅して殿堂を建立せしめ給

ふ慶長八年徳川家康嶮岨を夷らけ改めて大伽籃を造り踰國の大道場となせしが寛永十年祖廟、勢至堂、經藏三門の外悉く燒失し次で徳川家光之を再興し同年より起工して同十六年に至り成功す即ち現在の殿堂にして東山第一の大厦たり本寺法務は當初家康の上奏により法親王攝し玉ひ世に華頂宮又知恩院門跡と稱せり王政維新の際舊に復し一山の碩徳を推て之を管せり

三門　西向、華頂山の榜は靈元法皇の宸翰、二重瓦屋にして桁行十四間半、梁行六間七分元和元年徳川秀忠の建立する所なり

奥氏彰徳碑　三門前に在り魚屋八兵衛の爲に建る所、詳細は碑文に就て見るべし

接待所　本堂の前にあり泰平亭の額を掲く家康寄附の大茶釜あり口經一尺七寸餘胴三尺一寸緣五寸高二尺二寸一石五六斗を容と云

本堂　南面、大谷寺の勅額は、後奈良帝の宸翰、中央に圓光大師及ひ彌陀三尊佛等を安す堂は両向拝造り桁行廿四間六分梁行十九間なり堂前東檐に古傘を掛みたり知恩

院の傘とて著名なり世に種々の說あれども皆附會せるものにて信ずるに足ず其實は防火の呪符なりとぞ

經藏　本堂の東側に在り明板一切經を藏す德川秀忠の建立にかゝれり

鐘樓　本堂の巽に在り大鐘高一丈八尺直徑九尺五寸厚九寸五分量二萬貫目ありとぞ

勢至堂　本堂の東に在り一に本地堂と稱し勢至菩薩を安す知恩敎院の額は　後柏原帝の宸筆なり相傳ふ永觀中の設立にして慈鎭和尚より宗祖に附與され一枚起誓文をかれし靈地なり側に紫雲水、影向石等あり堂の南に一心院あり俗に捨世道場ともいふ

宗祖本廟　勢至堂の上に在り一に賜蓮堂と云厨子中に五輪石塔を安せり宗祖繪傳に此處へ詣づる者に一莖の蓮華を與へ極樂往生の票と告たまふと見へたるは此所なり廟の北に吉子內親王曠捨の山亭あり眺望佳なり其北方に德川家康秀忠の靈舍あり

集會堂　本堂の後にあり文殊菩薩幷に座像丈餘の彌陀佛を安す桁行廿三間餘梁行十三間世に千疊敷とよべり

大方丈　集會堂の東に隣れり佛間、拜間、上中下の三段
裏上段、鶴、梅、菊、柳、鷺の六間等あり皆極彩色總金
襖にして畫は狩野家諸名手に成り結搆莊麗なり此處より
小方丈に通ずるに椽あり歩に隨ふて鳴る響履廊といふ
小方丈　大方丈に接す間數は較少なしと雖も襖の揮毫者
は前に同じく金泥彩繪一層の美觀を覺ふ両方丈共に柱材
は木曾山廻香谷の檜を用ふとぞ
其他大小庫裡、新奮總門寺務所奥書院常侍局等あれども
列記しがたければ之を省く又學林は境内北位に在り宗内

僧侶を養成せり
境内古は鶴の林と稱し圓山公園に接し頗る廣大なり多
く櫻楓を雜植し春秋のながめ深く茶望酒標相並んで客の
來遊を待ち四時詣人絶ゆる事なく殊に例年二月十九日より七
日間宗祖の御忌法會あり都下婦女子各綺羅を飾り爭ふて
寺内に群集す俗に之を衣裳競とて平安著名の一莊觀たり
◉將軍塚　（華頂山の頂上）延曆遷都の始め平安城鎭護
の爲め長八尺鉄造の武者人形を埋め玉ひし所なり眺望極
めて佳

●青蓮院　（三條通粟田南入）天台宗世に青蓮院の宮と稱し座主法親王の住持し玉ひし所なり　開基傳敎大師中興行玄大僧正　世に粟田様（一に御家流）と稱する書風は尊圓法親王の筆法を傳ふるものなり又親鸞上人の當院に於て度戒を受られしより今に本願寺新門主は此に其式を行ふを例とす　殿堂は前年火災に罹りしも本年に至り再建し其構造の清麗なる舊に倍す又庭園は半ば相阿彌半ば小堀遠州の作にして幽雅掬すべし

●植髮堂　（青蓮院北）本尊阿彌陀佛の傍に見眞大師九歲の像を安せり是大師剃度の時の姿をうつし其髮を植をかれしと傳へ眞宗信者の群參する靈場なり

○粟田神社　（植髮堂の東）祭神　素佐雄尊、大巳貴命なり境地は粟田山の半ばにて風景好し其東の方に佛光寺庵所あり（以下長樂寺へつゞく）

●東大谷別院　（長樂寺南）元は智恩院内に在り後此所に移す元祿年間の造營なり本堂（南面）阿彌陀佛並に左右に　先帝　今上の宸牌、七高僧歷代上人等を安す親鸞上人廟は南北五間東西三間の石塚にして上に蹲虎の如き石

を置き其容ちにより虎石と稱す伏見桃山城内より移せりといふ此地は宗祖納骨の蠟蹟たれば同宗門徒の來つて白骨を藏むるもの絶ぞ

●雙林寺　（東大谷南）時宗一本山　開基傳教大師　建立延暦年中　初は叡山の別院たり　後柏原帝國阿上人に勅して東山道場となし玉ひ此時今の宗旨を開けり是より先　鳥羽天皇々女　土御門帝皇子の住し玉ふことあり世に双林寺宮と稱す其他古來諸名僧の此に住はるゝこと多し中世以降次第に破壞し今は僅かに一宇の小堂を存し本尊藥師如來及び宗祖上人像等を安せり境内頗る廣く一見古大寺の遺跡たるを知るに足れり

◉西行上人塔　本堂の前に在り傍に平康頼、頓阿法師の二塔相ならぶ、其西に西行庵あり又其隣に芭蕉堂あり其北に大雅堂あり孰れも風雅なる屋宇にして皆往時の高士なるが其遺趾の此處に鼎立するも亦奇ならぞや

○安井神社　（廣道松原上る三町目）祭神　崇德天皇大物主命　配祀源頼政卿　創立年月詳かならぞ世に安井金比羅といふ　社傳此地は往古　崇德帝の離宮にして後觀

勝寺に歸せり又同寺の別當道尊と稱せるは以仁王の子なりと（此時頼政を付せしか）其後蓮華光院より奉仕せしが明治四年之を革め鄉社となれり神境の風景信州更科に似たりとてむかしは觀月の名所に數へしとなん

● 建仁寺　（大和大路四條南建仁寺町）禪宗五山の一東山と號す　開基榮西千光國師　創立建仁二年にして本朝禪刹の魁首なり　土御門天皇深く御歸依まし〳〵勅して官寺となし玉ひ鎌倉將軍頼家敷地を施入し其弟實朝亦國師を尊信し往古伽藍巍々たりしが數次沿革し天文年中燒失し爾來再建なく現在の佛殿は東福寺より方丈は醫州安國寺より移す所なり

佛殿南面、本尊釋迦佛左右に迦葉阿難を安す開山堂其巽方丈其北に在り矢根門（佛殿の南）其扉に鏃の痕あり元は平重盛（一に教盛）の館門なりしを此に移すといふ又南門總門等あり在昔總門の南方塀の代りに竹籬を結べり世に建仁寺垣と稱す大鐘は故河原院の鐘後鴨川の淵に沈しを榮西禪師引上んとて力者を集めたれとも動かさゝ禪師吾名及び弟子長首坐の名を掛聲となさしめしに洪鐘やす〳〵

も上る世人今に重力のものを引にエツサイ、チヤウサイ
と囃すは此時よりはじまれりとぞ
當寺禪域は紅塵紫陌に接近すれども一歩門に入れば松竹
鬱々として生茂り殿堂蒼々として古色を帶び閑靜なり
○惠美須神社　（建仁寺門前）祭神言代主、少彦名、大
國主の三座　鎭座建仁年中僧榮西の奉祀する所京都唯一
の蛭子神にして例祭は一月十日、五月十六日、十月廿日の
三回あり
●念佛寺　（松原通建仁寺町東）一に愛宕寺と稱す　開
基弘法大師　中興傳灯大法師　本尊千手觀音と傳灯大法
師の像を安す又二王門に運慶湛慶合作の両金剛力士を立
つ當寺の堂宇は東山中稀に見所の古建築なり
●六波羅密寺　（同所の南）眞言宗新義派　西國巡禮第
十番納札所なり初は西光寺と稱し天台なり天暦年間京師
惡疫あり死人多し空也上人自から十一面觀音（卽ち當寺
本尊）を　彫刻し衆人に拜せしめ其　災　を攘ひ其後此寺を
創立され由緣起に見ゆ堂内に平相國像を安せり現時の
堂は豐公大佛建立の餘材にて建しものなりと

●六道珍皇寺　（念佛寺東）禪宗　本尊藥師如來　開基慶俊僧都　六道とは延曆遷都のむかし葬地に定められしより起れりと云

●八坂塔　（東山高臺寺南）本邦寶塔の嚆矢にして五層の高塔なり聖德太子の創建し玉ふ法觀寺の遺跡たり現在の塔は元和四年の建造にして屹然雲に聳へ全都の盛景を一眸の下に集む又伽羅觀音（靑龍寺）は塔の北に在りと觀音院は其北にあり庚申堂（延命院）は塔の西に在り日本三庚申（大阪天王寺、東京淺草寺）の一なり

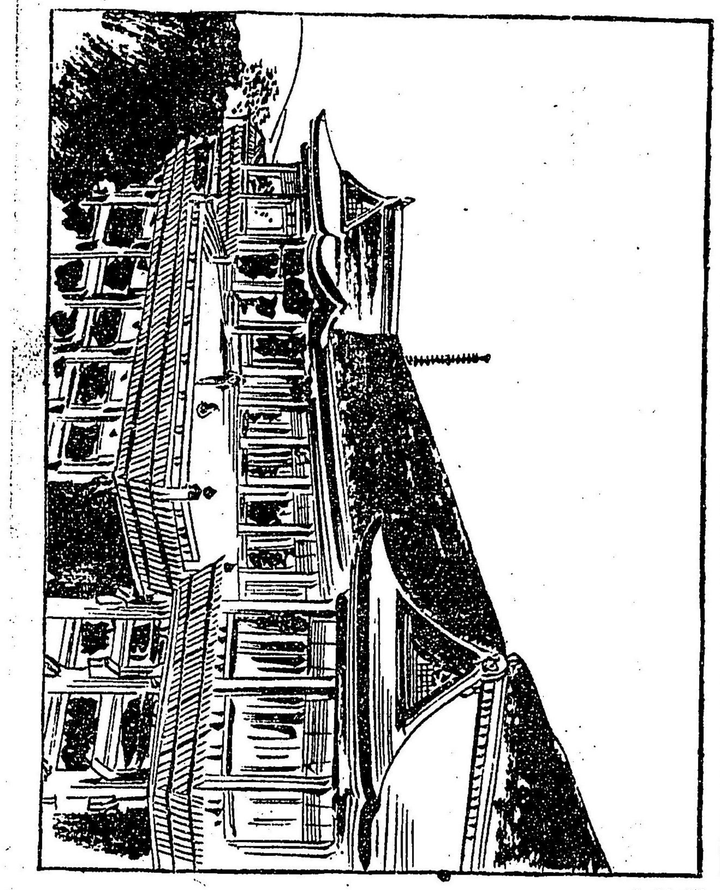
●高臺寺　（東山鷲尾町）禪宗　本尊釋迦牟尼佛　開基弓箭機禪師　創立慶長年中高臺院湖月禪尼（豐太閤北の方）の本願　中興三江和尚　寺に豐公の書及び尺牘綴錦陣羽織等を藏せり

開山堂南向、天井は高臺院殿の車の天井を用ふ開山禪師の像及び三江和尚の像を安し傍に木下二位法印夫妻の像あり此堂より廻廊を設けて高臺院の靈舍に通す靈舍は屋形造りにして金銀を鏤ばめ五彩を施し結構善美を盡せり豐公並に政所の像を安置す公の前に掲ぐる豐國太明神の

額は　後陽成帝の宸筆なり時雨亭、傘亭共に靈舍の東に在り伏見城より移す所にして構成嫺雅韻致掬すべし

境域は獨秀峯の麓にして老櫻數株あり開花の頃遊人少なからず又多くの胡枝花あり秋風凉を送るとき紫雲滿地の看あり高臺寺の萩花とて東山の一佳觀たり

◎靈山招魂塲　（靈山正法寺北）高臺寺南境に石華表（額は故熾仁親王殿下筆）あり此より東に上る壹町許に壹丈餘の銅標あり卽ち招魂碑なり山上には木戸孝允公の墓をはじめ梁川星巖翁、梅田雲濱、藤本鉄石、安積五郎等



數多の碑石あり

● 正法寺　（八坂塔の東）時宗の本山にして靈鷲山と號す　開基傳敎大師　中興國阿上人改宗せり往時は諸堂巍巍たりしも中葉甚だ荒涼に屬し其本堂さへも近年燒失し今纔に一宇を存するのみ又此邊を靈山とよぶは靈鷲山の略稱ならむ

● 興正寺廟所　（正法寺の南）俗に興正寺大谷といふ

● 清水寺　（清水坂東端）法相兼眞言宗音羽山と號す西國巡禮第十六番の札所なり　開基延鎭禪師　建立延曆十

七年坂上田村麻呂の本願、緣起に云在昔延鎭靈夢に感し
田村麻呂と謀り小堂を建北觀音寺と云其後桓武帝殿舍
を賜ひ大伽藍を營み勅願所となり大同二年今の名に改む
本堂南面、檜皮葺、懸崖に據て建架し東西に樂舍を設け
堂前に舞樹あり（此處眺望絶佳なり男女の妄信者徃々こ
こより身を投し祈願の成否を卜する者あり近年これを禁
ず）中央に十一面千手千眼觀世音、左に勝軍地藏、右に
勝敵毘砂門天を安し其壇上に二十八部衆を安す奥院其の
巽に在り懸屋にして安置する所は本堂と同し其北に阿彌
陀堂幷に釋迦堂あり音羽瀑は奥院の南方崖下に在り三條
の白絲を掛たる如く水質清冷久旱にもかれず朝倉堂本堂
と田村堂との中に在り越前國師朝倉彈正貞景の建る所そ
の西に田村堂あり田村麿、行叡、延鎭及ひ聖德太子を安
す此堂は最初の本堂の形なりと其西に經堂又其西三重寶
塔あり其他中門、西門、鐘樓、鹿間塚、二王門等あり成
就院（境內北側）本寺住職の住房にして有名なる月照、信
海の兩上人も此處に棲れし所なり門前に其碑幷びに近藤
義重の碑あり隨求堂（經堂の北）堂內に安する隨求菩薩は

（今胎内佛とす）豊公の持尊なりとぞ又傍に爪容観音と
て石面に彫める観音あり世に傳て悪七兵衛景清指甲にて
鐫しものなりと云經書堂（清水坂一町目）聖徳太子の開基
にして其自作の像を安置す地主神社（本堂の北）大巳貴尊
素佐雄尊外五座を祭る今は鄉社なり
當寺は音羽山の半腹に在り古來有名の靈境にして遠近騒
者常に絶す境内櫻楓多し各月観音の緣日には士女の香願
頗る多く釵光帽影相映して宛かも活樂土の観あり寶陀開
士靈驗の新なるを知るあなかしこ

●清閑寺　（清水の東四町許、歌中山）眞言宗　開基紹
継法師　建立延暦二十一年　本尊千手観音　清閑の名は
頗る佳なれとも今にして修理を加へさらんには可惜小督
局の悲哀なる物語を貽せし名寺も其芳躅を失なはんとせ
り境内楓樹多く秋季の眺め深し
◉小督局墳　清閑寺の北高倉帝陵の東側に在り
●西大谷別院　（五條通東端）本派本願寺の廟所なり慶
長年中智恩院内より此に移せり慶應の末に本廟と總門の
外皆燒亡し明治十三年再建す佛殿に安置する所及び其雛

殿は本山と同じ本廟は佛殿の東に在り表門の前に蓮池あり架せる石橋を圓通と號す俗に大谷の眼鏡橋とて名高し境地東山の佳處を占め風光に富み一に龍谷山と稱し其中に二十勝景あり

○若宮八幡宮　（五條橋東五町目）祭る所は　應神帝　神功皇后　仲哀帝　仲恭帝にして天喜元年源賴義勅を奉じ鎭座せり世と共に變遷して今はいたく頽廢す

○三島神社　（馬町通本町東）祭神大山祇神外二座　社傳永曆元年平重盛公の建立と云其後建治二年北條時宗再

營し延寶五年　靈元帝勅に修造を加へ玉ふ

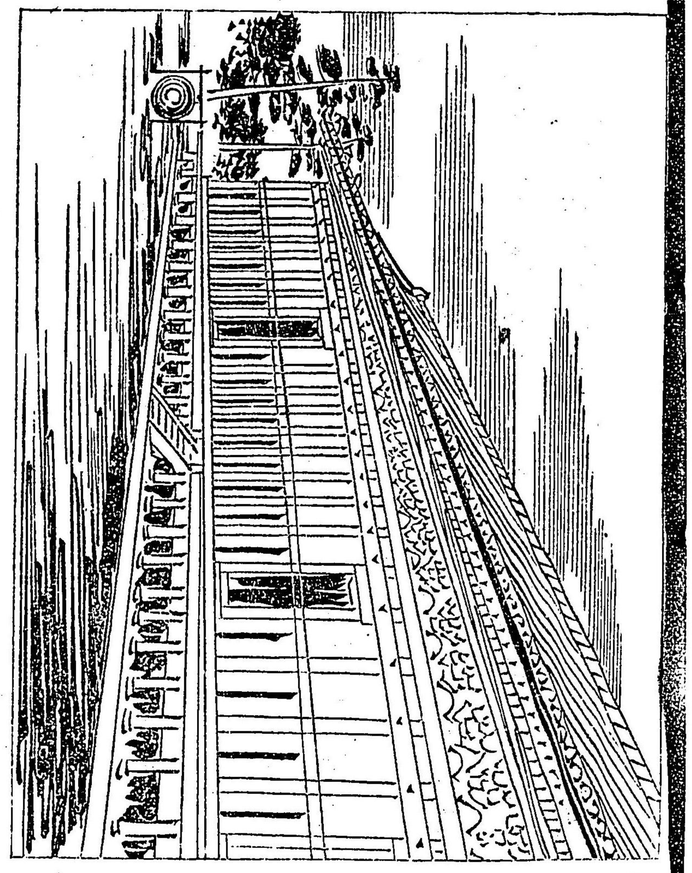
●小松谷正林寺　（馬町通東端）淨土宗　開基惠空上人本堂に圓光大師を安し其他阿彌陀堂開山堂　經藏　方丈樓門等あり淨域幽邃清潔なり

●妙法院　（馬町通南へ大佛東）天台宗世に新日吉門跡と稱す山門座主法務宮の住はせ玉ひし故なり慶長以降豐國廟、大佛を所轄す今は昔の盛に比ぶべくもあらねど尙都下屈指の大寺たり當院古豐國社の遺物多く又世に長州落とて故三條公以下七卿文久の變に鞏下を去るの議を決

せられし所は當院なればます〳〵世に顯はる

○豐國神社　（舊大佛境内）別格官幣社　祭神贈正一位豐臣秀吉公　後陽成帝慶長四年勅して豐國の神號を賜ひ祀廟は彌陀峰上に在り（即ち公を葬むる所）金碧煌然たりしが寛政年中燒失　今上登極のはじめ公の大勳を追錄し此地に祠宇を建たまふ

●大佛殿　（豐國神社北）方廣寺と號し天正十四年豐太閤の創立せし所巍然として山の如く中に坐像長六丈三尺の一大廬舍那佛を安置し其結構の絶大なりしとは境前な



三十三間堂

る大石垣に就て其一班を徴へし方今僅かに半身の木佛を安し其故跡を遺すのみなれど恰も好し今回征清の大擧あり皇軍連戰連勝捕拿の舊式大砲も多々なれば之を官に請往古の如く再造せんと計畫する人あり洪鐘は高さ一丈四尺、經り九尺二寸厚さ九寸慶長十九年の鑄造其銘文は銷磨すれども不祥の文字ありとて豐臣、德川兩氏の間に忽ち大釁隙を生し關原の大血戰となりしは此鐘なり豐太閤塔境內東南隅に在り前面の石燈籠には慶長十年などの文字あり

◉耳塚　（豐國神社表門一町許西）文祿征韓の役建てたる五輪の大石塔なり何の爲に建てたるかは說くの要なし今や偶々大讐親征の事あり此墳に對し神飛肉顧の感あります〳〵敵愾心を起さしむるに足れり

○新日吉神社　（妙法院後山）府社　祭神大山咋神外四座　後白河上皇永曆元年近江の本社より勸請し玉ふ所也

◉阿彌陀峯　新日吉神社の後峯にして今尙山上に豐公古墳あり近時有志の士草萊を開き參詣人に便せり

◉智積院　（妙法院南）眞言宗新義派總本山、一乘山と號す卽ち紀州根來寺を移し此處に再興せしなり本堂に不動明王を安し大師堂に弘法大師開山堂興敎大師を安す其他方丈、客殿等あり勸學院は宗內衆僧の來り佛籍を講ずる所なり

△帝國京都博物館　（豐國神社南）獨國式の一大舘なり其建築費十六萬八千餘圓の豫算にて明治廿五年に起工し昨年九月其內部を落成せり正面破風の下の石柱に彫める毘須羯摩と伎藝天の肖像は美姿美貌相對し巧妙莊麗いはんかたなし建坪九百十餘坪にして有繋に國寶を永遠に保

存すべき一大寶庫たり

●養源院　（博物館南）天台宗　開基盛伯法印　本尊阿彌陀佛　當寺は大虞院（豐公内室）其父淺井長政追孝の爲に建る所、其後間もなく燒失し崇源院（徳川秀忠室、大虞院妹）之を再建せり方丈、客殿に名手の畫圖多し境内に元三大師、大日等の小堂あり

●三十三間堂　（養源院西）天台宗　蓮華王院と稱す長さ六十六間（柱より柱の間二間）あり十一面觀音立像一千一軀を安す、緣起長寛二年　後白川院の創造なり其先長

承元年　鳥羽帝得長壽院を創立し此兩院寶治年間に回祿し文永年中再建し合せて一寺となせり

因みに云古來本堂裏に大矢數てふことを行ひ善射の士鏖出せし中にも紀州和佐臺八郎を第一となせり今尚射場なに設け其弓力を試むるものあり

○新熊野神社　（今熊野町字椰森）　後白河上皇永應元年創建し玉ふ所なり　祇神社は本社の南宇宮の前に在り

●今熊野觀音　（新熊野社の東南）西國順禮第十五番納札所にして本尊十一面觀音を安す此地古は山本左大臣の

第なり

◉泉涌寺　（伏見街道一之橋東）東山泉涌寺は　朝家の御香華院にして釋空海の開創する所なり初は法輪寺と號し齊衡三年藤原緒嗣重修し仙遊寺と改む其後建保年間僧俊芿再興し天台、眞言、禪、律四宗兼學の道場となし清泉涌出の靈あり因て泉涌寺と稱し貞應年中官寺となる仁治三年はじめて　四條帝を當山に葬め奉り其後又　後光嚴院を荼毘し奉りし以降　至尊を奉葬する靈境とはなりぬ故に勅賜靈什等頗る多し

靈妙殿　即ち御歴代　帝王の神主　后妃の尊牌を奉安せり南に　四條帝宸影殿あり

佛殿　西面、二重瓦屋、中央に彌勒、右に釋迦、左に彌陀の三佛を安し左右脇壇に梵天、帝釋及び開山、靈芝、南山等の像を配せり泉涌水は本殿の南にあり其東に

舍利殿　あり　貴金二層寶塔に佛牙舍利を安す　緣起に此佛骨は釋尊滅後一千六百餘年を經て唐の白蓮寺より傳來する所なりと後方に開山堂あり正法國師を安す泉涌寺と署す額は張卽之の筆なり

觀音堂　中門の北側に在り本尊聖觀音は唐玄宗、楊貴妃追福の爲に其容貌を摸造せし所なりといふ

當寺淨域は東山南位にして峯巒遥迤として梵宮を擁し後山に　歷世帝后及ひ皇族の御陵墓等あり山愈々秀で地益盆鬱あり永く祝國の道場たり

●雲龍院　（泉涌寺南境）子院の一にして竹巖律師の開基なり本尊藥師佛　後光嚴　後圓融兩帝の御影殿あり

三條橋より東北の方

●壇王　（三條大橋東）栴壇王院又法輪寺と稱す　淨土宗　開基道光法師なり中興帶中和尚　本尊阿彌陀佛本堂の傍に主夜神祠あり婆珊婆演底を勸請す

●頂妙寺　（二條河端東）法華宗　開基日祝上人　建立文明年中細川勝盆の本願　本堂に法華首題牌、釋迦、多寶等を安せり　樓門東に持國、西に多聞の二天を安せり靈驗ありとて賽人多し外に祖師堂、妙見、三十番神、利堂、方丈、鐘樓等あり

●寂光寺　（同所）法華勝劣派二十一刹の一　開基日淵上人　在昔寺中本因坊に圍碁の妙手あり

●要法寺　（同所東）前寺と同じく廿一刹の一　建立正和年中（寶永年中泉州堺より此處に移る）　開基日尊上人は布教に熱心にして十六年間に三十六箇の寺塔を建られしと境内清淨にして堂宇亦見るべし

◉白川橋　三條官道白川に架す石橋なり白川の水源は滋賀山中より出で鹿谷、南禪寺を經て此處に至り大和橋（繩手通）を過鴨川畔の運河に落つ

△水利工場　（南禪寺門前）琵琶湖より疏通する水量三百個一立方尺の水力一秒時間に一尺を流るゝを一個と云ふを使用して電氣を發し全都の工業に資する大工場なり目下發電機は八臺、明治卅年迄には廿臺に增加し二千馬力となす豫算也工場の前にインクラインとて船頭なく舟山に登る仕掛も電氣鐵道も電燈も皆此機關による又此水路は三保崎に起り三井寺山下第一隧道（トンチル）千三百四十間に入り第三隧道を經三條蹴上に至り船は百拾八尺の高低を三百五十五間の傾斜鐵道に依り上下す伏見濠染の南に此流は俗に疏水とよぶ卽ち靜屋川（靜屋とは前の知府北垣氏も此仕掛あり の號より起れり）なり水量の一定不變なるは外人も驚嘆する所なり

●南禪寺　（東山粟田北）禪宗五山の一、瑞龍山大平興

國南禪寺と號す　開基大明國師（即ち無關和尚）　創立弘安年中　沿革往古此地に最勝光寺あり道智僧正（世に駒僧正と云）住せしも多く歳月を經て廢燕し　龜山法皇其遺跡に離宮を建玉ひしに不思議の事のみ多く東福寺の無關を召て修法せられしに怪事休しゆる　法皇叡感の餘り佛殿を創し之を賜ひ庶像釋迦を本尊とし脇士に文珠普賢を安せり應仁の兵火に焦土となり其後再建す

山門五鳳樓といふ寛永四年藤堂高虎の再建、其前に大石燈籠あり高二丈餘、軸長五尺六寸同周圍一丈七寸餘、臺六角徑八尺三寸、土臺徑一丈一尺餘なり佛殿慶長年間豐臣秀頼の再營にして輪奐美を盡せしも本年一月火災目下再建の計畫中方丈（佛殿跡の東）に接て書院あり龍淵室と云襖の繪は狩野諸名手にて共に結構清麗なり座禪堂（佛殿跡の北）其西の僧堂を叢蔭林といふ其傍なる景烈祠に本多佐渡守（正信）の碑あり南禪院（僧堂の南）　龜山法皇の離宮を革めて精舍となし玉ひし所也中央に　法皇の宸影を奉安金地院（境内南側）庭前の林泉頗る雅致あり東照宮（同所南）德川家康の靈を祀り其感得せし竹符（是の字

を彫む）を神主とす京極高廣、細川幽齋同族人の塔及び
梁川星巖先生其室紅蘭女史墓は共に境内天授庵に在り駒
瀧寺後獨秀峯の下に懸れり水饒大ならねど大旱にも涸れ
ず且景致幽邃なり傍に狛僧正の小祠あり境内西北較開濶
なれども南に羊角嶺を控へ東に獨秀峯聳へ松杉繁茂し自
から閒靜にして仙寰の如し

◉法勝寺舊址　其所在詳かならねど方今平安神宮の
東畔ならむ在昔法勝、尊勝、圓勝、最勝、成勝、延勝の
六刹あり世に六勝寺と稱せり是京白川繁盛の時なり其中
法勝寺最も大なりき前年靜屋川を穿ちしとき其片瓦を出
中より發掘せしことあり

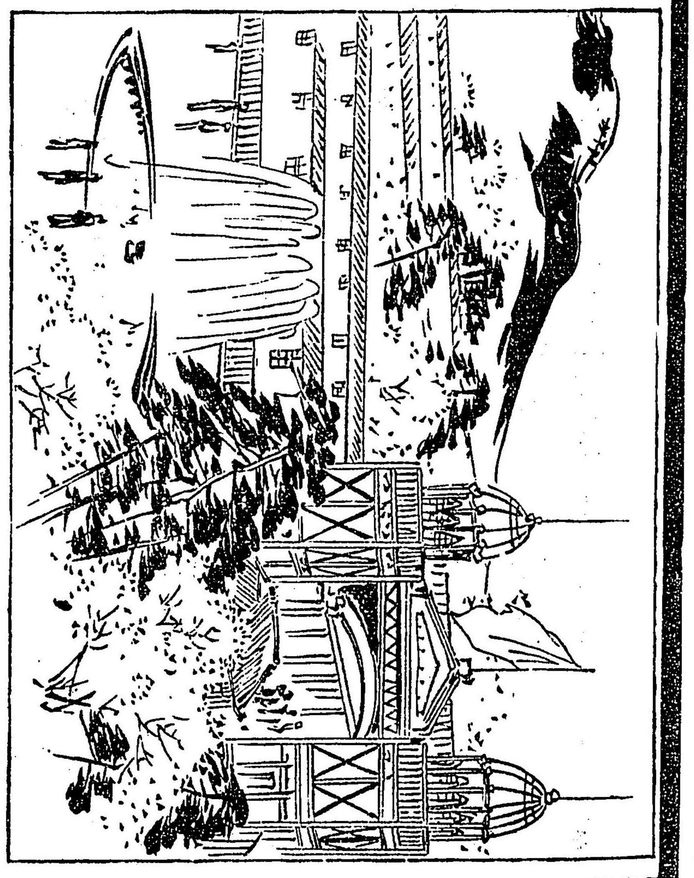
○平安神宮　（岡崎町）本朝第五十世の英主　桓武天
皇の尊靈を奉祀する宮殿にして官幣大社也京都市民が率
先して全國有志者と胥議し平安城を奠め玉ひし千百年に
當れるを機とし在天の神靈を安慰し奉り一は其聖恩に酬
ひ一は皇國の光輝を世界に宣揚せんとし醵金して一昨年
起工し本年落成せり今や謳歌の徒子來の民延曆の當時と
千載其趣を一にし紀念祭は實に萬古の盛事として外邦

に誇示すべきなり

本殿　南面、檜の白木造　桁行廿七尺八分梁間廿八尺三寸五分清雅嚴肅なり

拜殿　卽ち大極殿の模造　桁行百尺　東に蒼龍樓　桁行廿二尺四寸八分梁間廿二尺四寸八分西に白虎樓同上左右に步廊　桁行三百卅八尺梁間十三尺を設け中央に龍尾壇三百八十あり都て瓦は蒼碧柱は丹朱相映じて莊觀なり

神門　卽ち應天門の模造　桁行六十尺梁間廿四尺拜殿と同制にして燦爛眼を奪ふ其他祝詞舍　桁行二十尺三寸八分梁間十一尺八寸四分透塀十六尺後門九尺等めり繞すに土壘二千を以てし後面の林泉には龍虎の形をなせる池あり一たび此盛觀を拜せば坐ろに延曆の往時を想



起し此地が白川全盛時代の變遷して桑圃と化したる舊址
たるを追思して今昔の感に堪へざるべし

△第四回博覽會場　平安神宮の南に在（百事便覽參看）

▲絹糸紡績會社　藤井紡績所等此の附近に在り

○熊野神社　（聖護院町）本社は當初　後白河上皇の勅
願により紀州熊野新宮を勸請す現在神區は廣からざれど
老樹喬木柯を交へて森々たり俗に聖護院社と稱す

●聖護院　（丸太町通川端東）開基智證大師　天台流修
驗道を總管し中世法親王住し玉ひし故に聖護院宮と稱せ

り維新後尚門跡號を許さる

㊟金戒光明寺　（洛東黒谷）淨土宗四箇本山の一紫雲山と號す開基圓光大師創立安元々年沿革宗祖大師閑棲の地にして初め叡山西塔の黒谷に住し後此處に移られしを以て新黒谷と稱せり山門安政年中の建立本堂南面、両合拜邊の大厦なり圓光大師自作の座像を安す鐙懸松（本堂前）傳云むかし熊谷蓮生法師其戰袍を掛しと枝條四垂衆蓋を張が如し又方丈の北庭に鉄衣を洗ひしと云小池あり阿彌陀堂（本堂の前）其南に觀音堂あり本尊千手觀音は洛陽觀音巡りの一なり熊谷堂（境内蓮池の傍）法然上人自筆母衣御影を安す蓋し紀念として熊谷法師に與へられし眞像にて其絹は敦盛の母衣なりと云同壇に熊谷法師及び敦盛の像あり勢至堂（熊谷堂の上方）壇下に五輪石塔あり即ち宗祖の塔なり蓋し宗祖は勢至の化現なるを以て之を設けたりと云堂側に二基の卵塔相並び立てり熊谷直實、平敦盛の塔なりとぞ三層塔（同所の北山腹）文珠菩薩を安す此靈像は丹後切戸大和阿倍と日本三文珠の一體なりとぞ子院中の西雲院（文珠塔の北）開基は心譽宗嚴とて豐公征韓の時

の捕虜なりしが僧となる公方家侍女阿茶之を憐みて資を施せりと

◉神樂岡　（吉田町）黒谷の北西に當り南北四町許の小丘なり某神書に上古事勝神加茂神此處に集ひて神樂を奏し玉ひしより此名ありと云ふ眺望絶佳春花秋月共に宜しからざるなし新宮歌合に範光が「振立てならし顔にそ聞ゆなり神樂の岡の鈴虫の聲」と詠れしも亦おかし

●眞如堂　（東山吉田町）天台宗鈴聲山極樂寺と號す開基戒算上人建立正曆年中本堂西面中央、阿彌陀脇士、千手觀音不動明玉その他阿彌陀堂三重寶塔元三大師堂等あり境域神樂岡北部に在り金戒光明寺と相並べり地に紅葉多く秋晩群集す或人の狂句に「あゝ醉たかうるふてこそもみぢかり眞實眞如どうもたまらむ」と詠しは佳謔なり

例年十一月六日より十五日迄法會あり俚俗之を十夜と稱し參詣者頗る多し

○宗忠神社　（吉田山東）祭神　神道黒住派教祖宗忠

鎭座文久二年なり慶應初年勅願所となり翌年從四位の神階を宣下せられ且屢々金幣の賜あり貴顯の獻物等ありて派下の信敬大かたならざるなり冥驗新たなりとぞ本社の北に別

に　天照大神を奉祀し南に教會所あり昨年新築にして尚
巨多の資を投し追次增築の計畫なり神樂岡に巍然雲突く
ばかりの莊觀に加ふるに風景絶佳の一大社殿を見る近さ
にあるべし

○吉田神社　（神樂岡中央西麓）官幣中社　鎭座貞觀年
中々納言藤原山陰卿（一說に卜部兼延）の勸請蓋し其祖神
なり本社四座南面、祭る所は武甕槌命、齊主命、天津
兒屋根命、姬御神にして南都春日に同じく社殿搆造も畧
相似たり本殿八棱造莊嚴なり本邦中三千餘座、天神地祇
八百萬神を祀る南面破風の內に掲ぐる日本最上日高日宮
と題せる大額は　嵯峨天皇、小額に太元宮と記すは　後
土御門帝の宸翰なり八神殿（本殿の後）八社相列ぶ往時
天皇之鎭魂神なり內宮（八神殿の東）外宮（同所西）兩島居
の額は藤原富子（足利義政室）の筆なり日本國中攝社（本殿の
東西）國別に其神數を書す總て三千六十三神あり其他若
宮神樂岡神卜部兼俱靈祠等あり中門、額日本最上神祇齋
場、樓門額日本最上兩太神宮とあるは共に淸水谷實秋卿
の書なり（以下南禪寺につゞく）